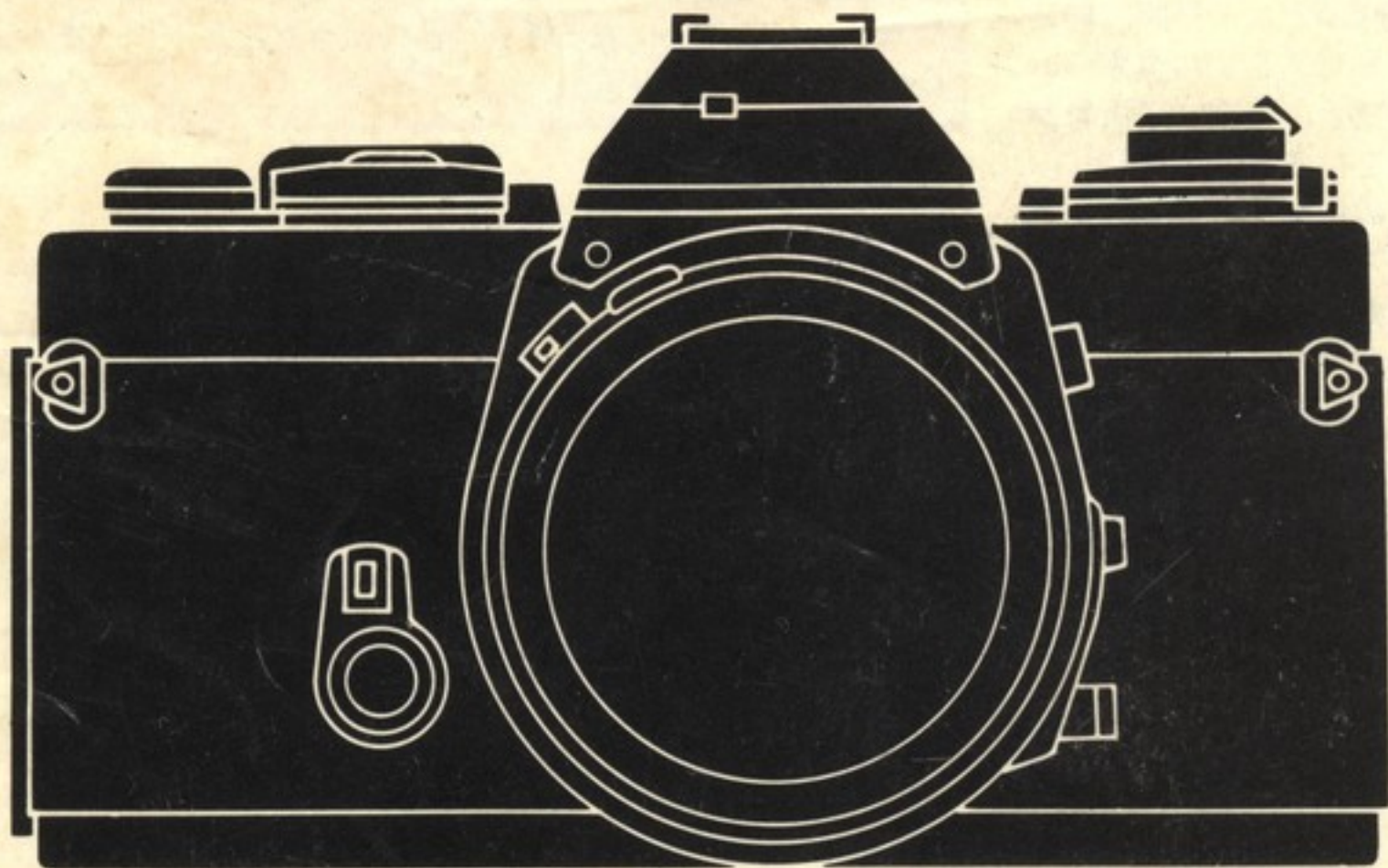


MINOLTA XD



使用説明書

ご使用前に必ずお読みください

ミノルタXDをお買上げいただきありがとうございます。
XDは、絞りの連動範囲を越えても適正露出を保証するミノルタ独自のシャッター速度優先方式および絞り優先方式の自動露出撮影とマニュアルで使用できる小型・軽量高級一眼レフカメラです。

「ミノルタオートワインダーD」を装着すると、1秒間に約2コマの自動巻上げが可能となります。また、「ミノルタオートエレクトロフラッシュ200X」を装着すると、充電完了信号がカメラに入力され、ファインダー内LEDで点滅表示し、シャッターを切ると自動的にフラッシュ同調速度で露出されるフラッシュシステムを備えています。

カメラおよび専用付属品は、操作性と便利さを最優先に最新の電子工学技術を駆使して設計しております。

初めてこのカメラをお使いになる方は、一般的な撮影手順を示した基本操作編をお読みください。さらにこのカメラの性能を十分ご活用いただくために、使用説明書を最後までお読みください。カメラの機能をよく理解し、カメラに慣れていただければ、カメラの活用範囲がグッと広がるばかりでなく、撮影が一層楽しいものとなります。

ミノルタXDの機能を活用していただくためには当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されている交換レンズおよび付属品のご使用をおすすめします。

当社製品以外の交換レンズまたは付属品を単に装着できるといっただけでお使いになる場合、どのようなことが起こるか当社では予測できません。

この使用説明書の写真および内容説明は、MDロックコール50mm F1.4レンズ付になっていますが、他のMDロックコールレンズおよびブラックボディをお求めの方も使用方法は同じです。この使用説明書はXDの使い方が中心になっていますので、撮影上の一般的な知識は別の参考書をお読みください。

ミノルタXDの撮影方法について

ミノルタXDは、露出操作が苦手な初心者の方からメカに詳しいプロの方まで幅広い層にわたって使っていただけるカメラです。それぞれ目的に合わせて撮影方法が選べます。

〈なお、詳しい使用説明は本文をよく読んでご使用ください。〉

1 誰もが写せる超自動露出撮影 P22

カメラが初めての方や、露出操作の苦手な方、あるいは急を要する報道関係の方は、この撮影方法が大変便利です。

2 Sモード(シャッター速度優先自動露出撮影) P20

シャッター速度を生かした撮影で、目的のシャッター速度を設定するだけで、被写体の明るさに応じて絞り値が自動的に決まるAE撮影方法です。動きのあるカーレースやスポーツ写真などの撮影に効果を発揮します。

3 Aモード(絞り優先自動露出撮影) P24

絞り効果を生かした撮影で、目的の絞り値を決めるだけで被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に決まるAE撮影方法です。ポートレートや風景写真、接写・複写などの撮影に効果を発揮します。

4 Sモードの特殊な使い方 P42

ミノルタXDの超自動露出機能によってより高度の撮影テクニックを発揮させることができます。

5 Mモード(マニュアル撮影) P51

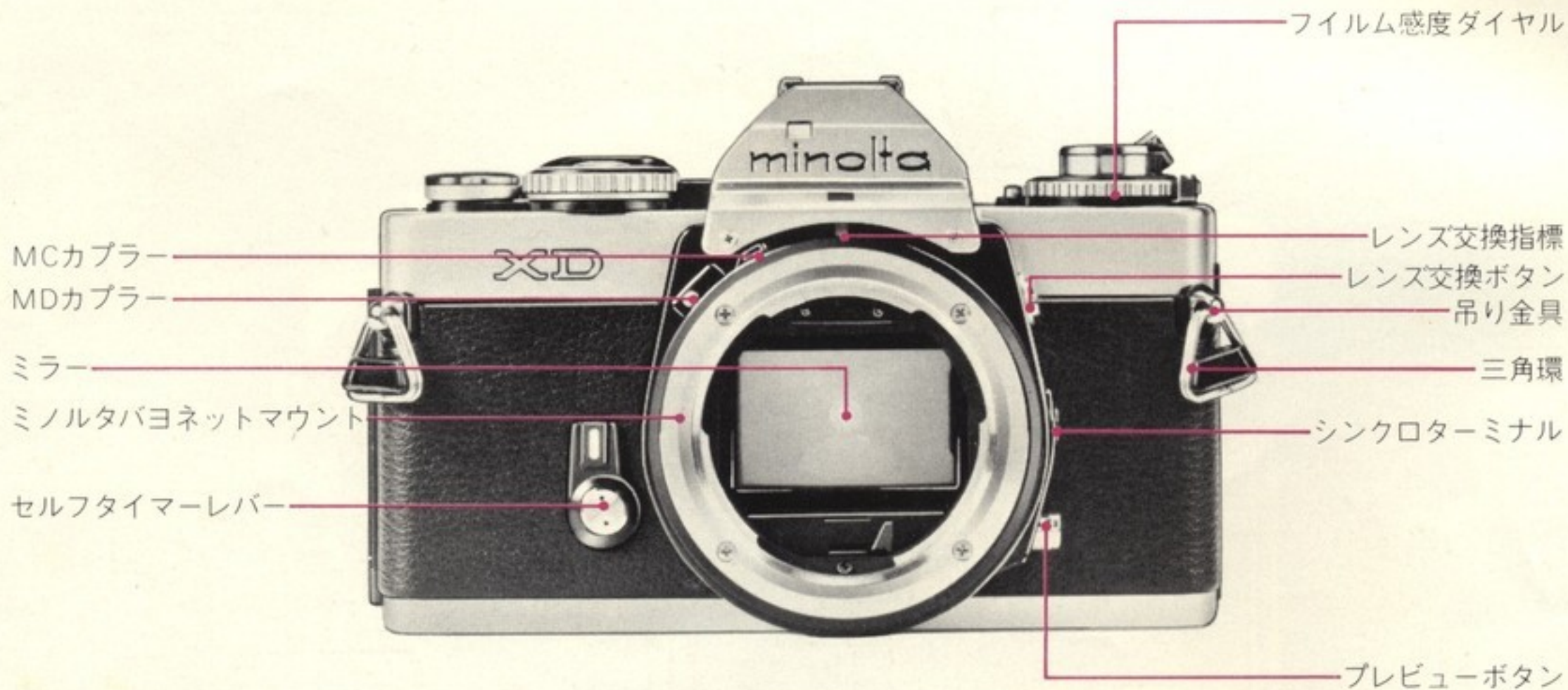
単独露出計を使う撮影や自動露出撮影で露出補正量が±2EV以上のとき、または被写体条件が変わっても撮影条件を一定にしたいときには、Mモードに切り換えて撮影できます。

目次

各部の名称	6	露出補正について	40
自動露出撮影のしかた早わかり	9	Sモードの特殊な使い方	42
●基本操作編	12	フラッシュ撮影	44
撮影の準備	13	セルフタイマー	48
レンズの着脱	13	アイピースシャッター	49
電池について	14	シャッターダイヤルについて	50
フィルムに入れ方	16	Mモード	51
フィルムシグナル	18	多重露光撮影	52
フィルム感度目盛の合わせ方	19	赤外線撮影	54
自動露出撮影のしかた	20	プレビューボタン	55
撮影モードの選択	20	深度目盛	56
誰もが写せる超自動露出撮影	22	交換レンズについて	57
ピント合わせ	26	ストラップの取り付け方	60
シャッターの切り方	27	ケースの着脱	61
フィルム巻上げ	28	●参考編	62
フィルムの巻きもどし	30	専用アクセサリ	63
●応用操作編	32	手入れと保存の方法	67
自動露出(AUTO)撮影の例	33	おもな性能	68
各撮影モードに対応するファインダー	36		
▲と▼マークについて	38		



各部の名称



バヨネット標点

深度目盛

裏ぶた開閉ノブ

シャッターダイヤル

露出補正レバー

シャッターボタン

巻きもどしクランク

リモートリリースターミナル

フィルム感度表示窓

フィルムカウンター指標

フィルム感度ダイヤルロックボタン

フィルムカウンター

アクセサリシュー

巻上げレバー

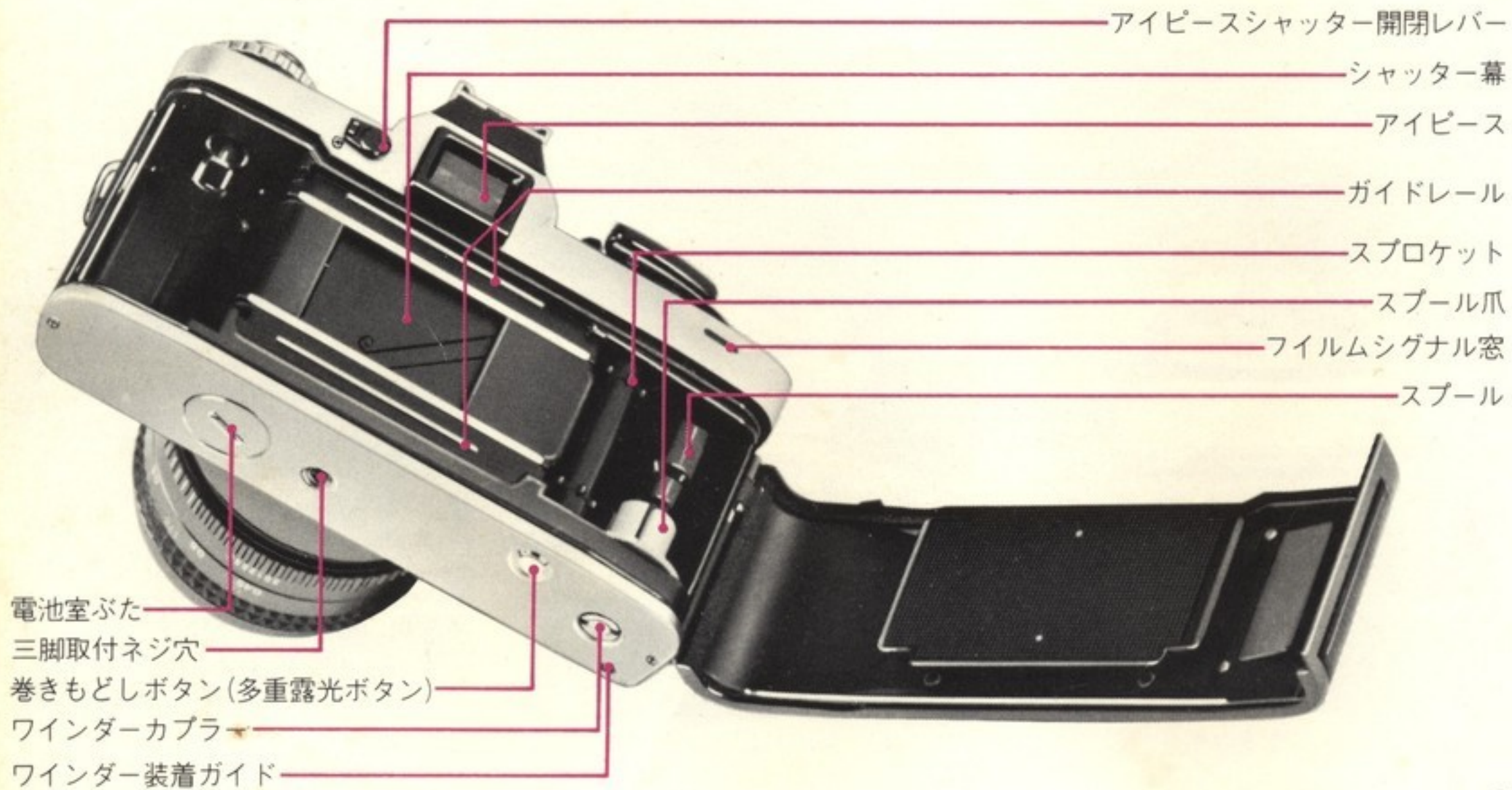
シンクロオートコントロール接点

撮影モード切換レバー

ダイレクト接点

シャッターダイヤル指標



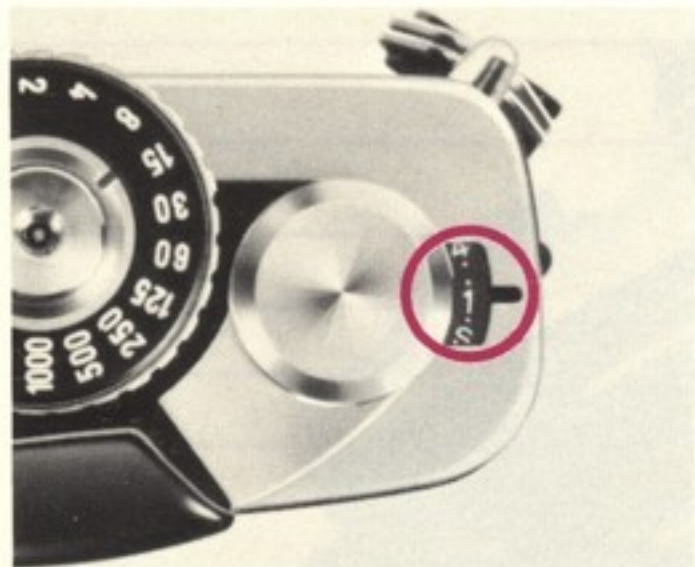


自動露出撮影のしかた早わかり

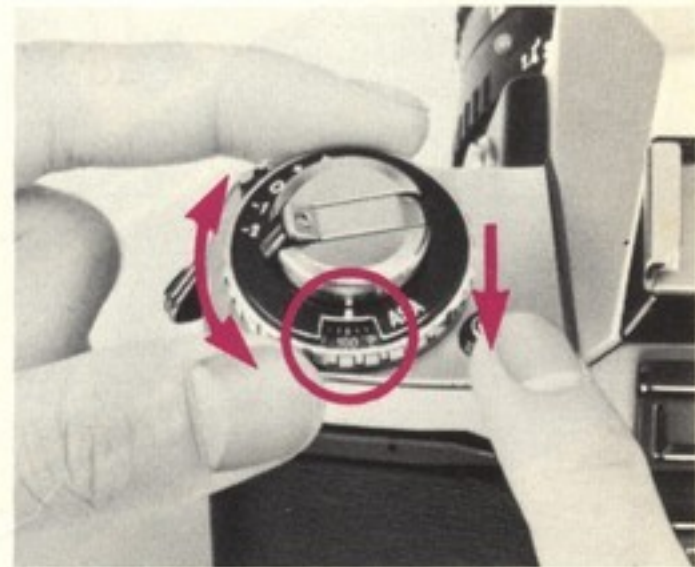
取扱いの詳細は各参照ページをご覧ください。



1 裏ぶたをあけてフィルムを入れます。(P16参照)

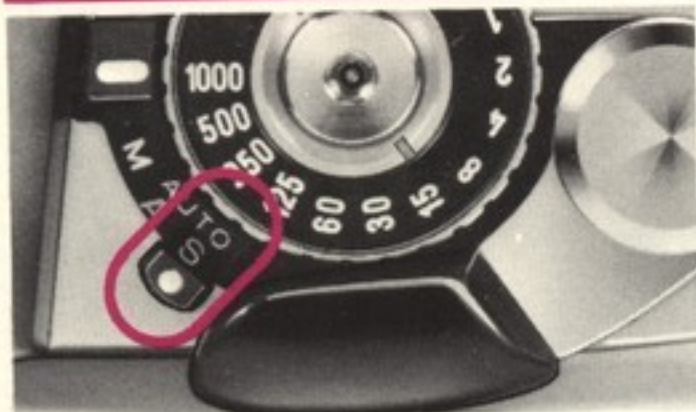


2 裏ぶたを閉じて巻上げレバーを操作し、フィルムカウンターを1にします。(P17参照)



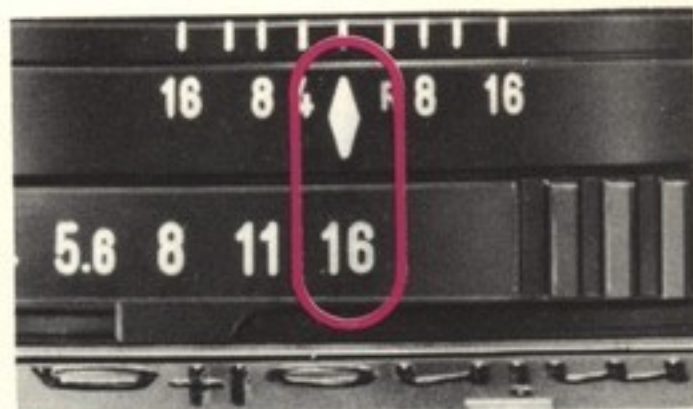
3 フィルムの感度を合わせます。(P19参照)

速度優先自動露出撮影

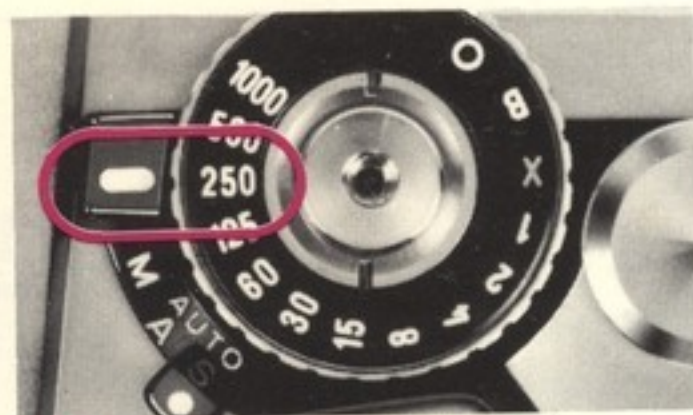


4 撮影モード切換レバーをSにします。(P20参照)

(シャッター速度を先に決めて自動露出撮影するとき)



5 絞りを最小のF 16(緑色表示)にセットします。(P20参照)



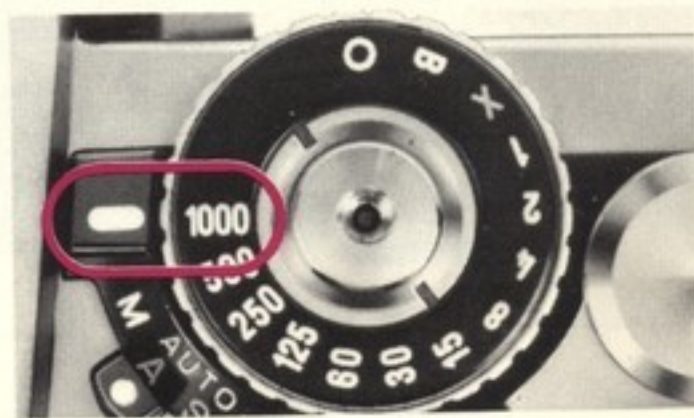
6 シャッター速度を決めます
(P21参照)

絞り優先自動露出撮影

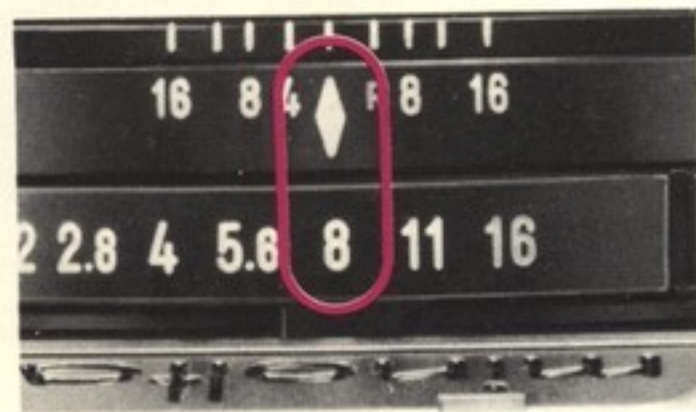


4 撮影モード切換レバーをAにします。(P24参照)

(絞りを先に決めて自動露出撮影するとき)



5 シャッターダイヤルを1000~1の
いずれかにセットします。
(P24参照)



6 絞りを決めます。(P24参照)

誰もが写せる超自動露出撮影 (露出操作の苦手な方へ)

(シャッター速度優先超自動露出方式)

露出操作の苦手な方は、P 9～10の速度優先自動露出撮影の手順1～6でシャッター速度を $\frac{1}{25}$ 秒または $\frac{1}{50}$ 秒にセットすれば、一般屋外撮影から明るい室内までシャッターボタンを押すだけで、自動的に適正露出で写せます。

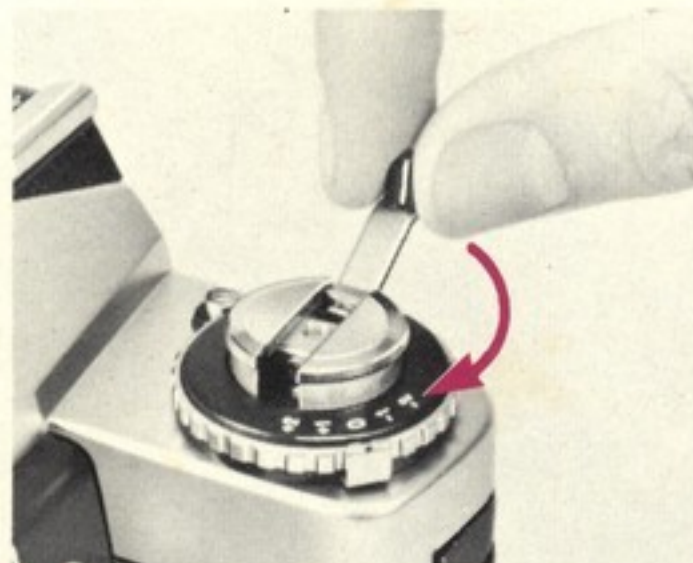
カメラを初めてお使いになる方は、この方法で簡単に撮影できます。くわしくは、P 22をご参照ください。



7 構図を決めてピントを合わせます。
(P 26 参照)



8 シャッターを切ります。(P 27 参照)



9 規定枚数の撮影が终れば、フィルムを巻きもどして取り出します。
(P 30 参照)

基本操作編



レンズの着脱

レンズの取り付け方



1 ボディキャップを矢印方向に回してはずします。



2 レンズのパヨネット標点(赤点)をボディのレンズ交換指標(赤指標)に合わせてはめこみ、時計方向にカチッとロックがかかるまで回して取り付けます。

レンズの取りはずし方



レンズ交換ボタンを押しながら反時計方向に止まるまで回してから、前方に引き出してはずします。

● 取りはずしたレンズにはレンズキャップ、後キャップを取りつけ、ゴミやホコリから守ってください。また、レンズ面にキズや指紋をつけないように注意してください。

電池について

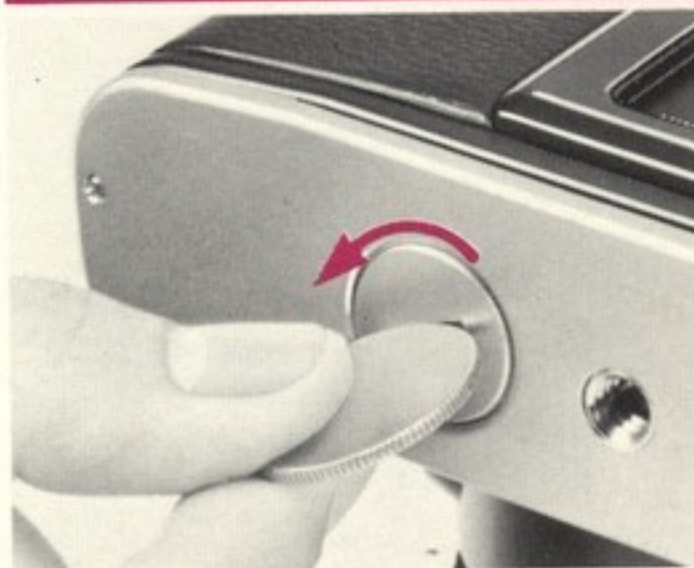
電池は JIS G-13型銀電池(1.5V) 2個
を使用します。



- 同じ大きさ、形状の水銀電池が市販されていますので、買い換えのときは必ず JIS G-13型銀電池と指定してください。
- 海外では下記の電池が G-13 型銀電池に相当します。

アメリカ	EVEREADY	S-76
	RAY-O-VAC	RS-76
西ドイツ	VARTA	No7301

電池の入れ方



- 1 電池室ぶたをコイン状のもので反時計方向に回してはずします。



- 2 電池室ぶたの極性表示にしたがって銀電池2個を入れ、電池室ぶたをもと通りにしっかりとねじ込みます。
- 電池を入れるとき、電池の表面に汗や、あぶらをつけないようにしてください。よごれたまま使用すると接触不良の原因になりますので、よごれがあるときはかわいた布などできれいにふきとってください。

電池チェックのしかた



ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを軽く押します。ファインダー内右部の赤色LED (▲、●、▼)のいずれかが点灯すれば電池の性能は十分です。いずれのLEDも点灯しなくなったときには2個とも新しい電池と交換してください。

- 撮影モード切換レバーがSの位置では、レンズの絞りが最小絞りにセットされていなければ点灯しないことがあります。
- 電池がなくなってきてLEDが点灯しなくなってもシャッターが切れる間は適正露出で自動露出撮影ができますが、できるだけ電池の交換をお勧めします。
- 電池の電圧が規定以下になるとシャッターボタンを押してもシャッターは作動しません。交換する電池が手もとにないときは、シャッターダイヤルをO(1/1000秒)またはBにセットすれば電池なしでも使用できます。また、このときセルフも電池なしで使用できます。

- シャッターボタンは軽く押すと電源がはいって測光とLED表示を行ない、さらに押すとシャッターが切れるようになっています。電池チェックまたは測光だけを行なうときは軽く押すだけにとどめてください。

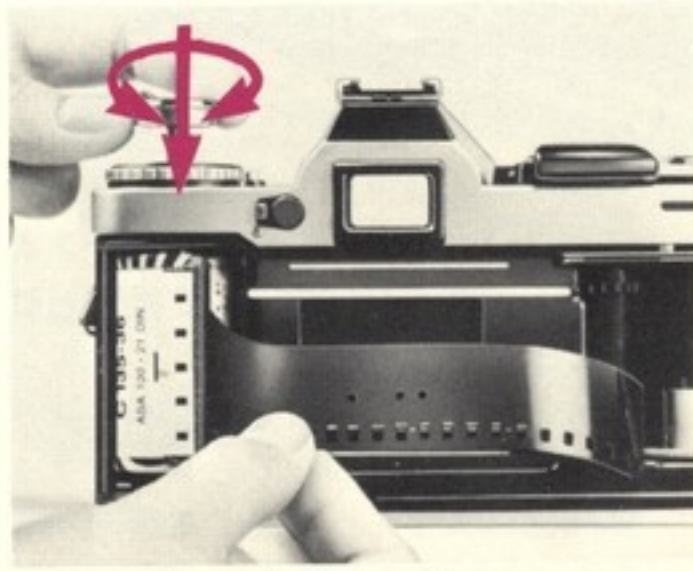
★カメラを持ち運びのときやカメラバッグの中に入れて保管するときに、シャッターボタンが押し込まれたままになっていますと電池が早く消耗しますので、持ち運びにはカメラケースに収納してください。

フィルムに入れ方

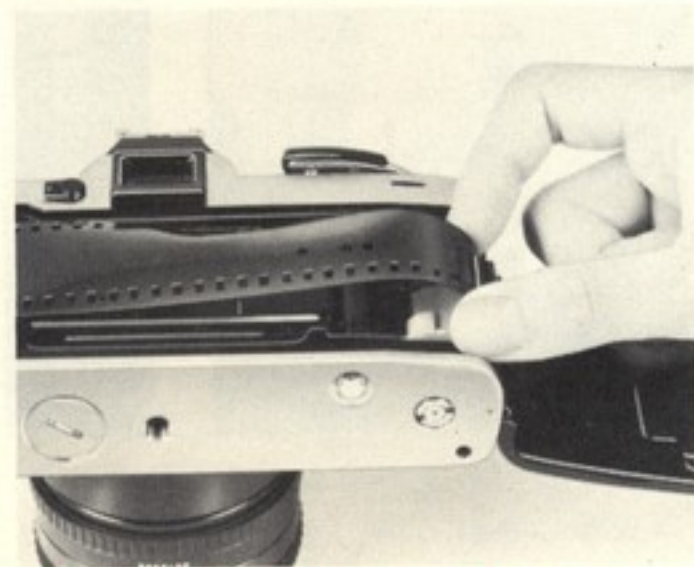
フィルムは市販のパトローネ入り35mmフィルム(12、20、24、36枚撮りなど)を使います。フィルムの出し入れは直射日光の当たらない場所で行なってください。



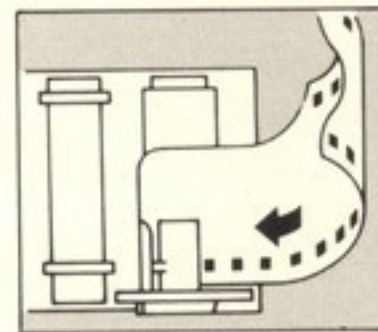
- 1** 裏ぶたをあけます
裏ぶた開閉ノブを引き上げ、さらに強く引けば裏ぶたが開きます。



- 2** フィルムを入れます
パトローネを写真のように入れ、裏ぶた開閉ノブを元のようにもどします。もどらないときには、左右に少し回しながら押し込めば簡単にはいります。

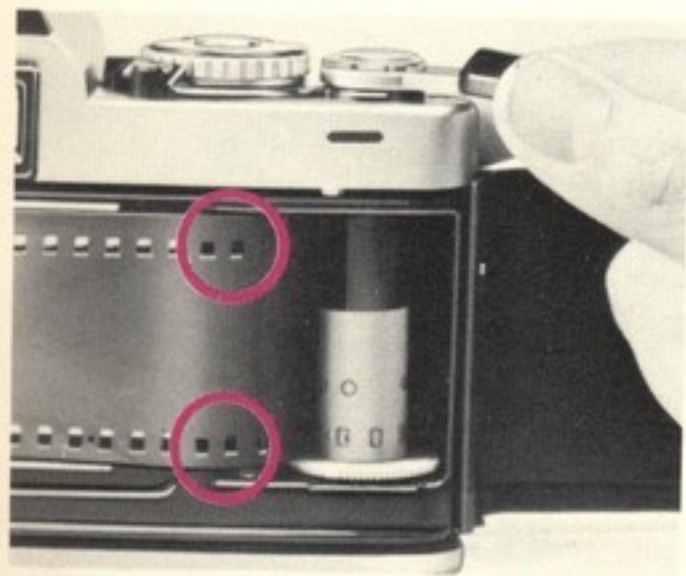


- 3** フィルムの先を差し込みます
フィルムをパトローネから少し引き出し、フィルムの先端をスプール爪に差し込みます。

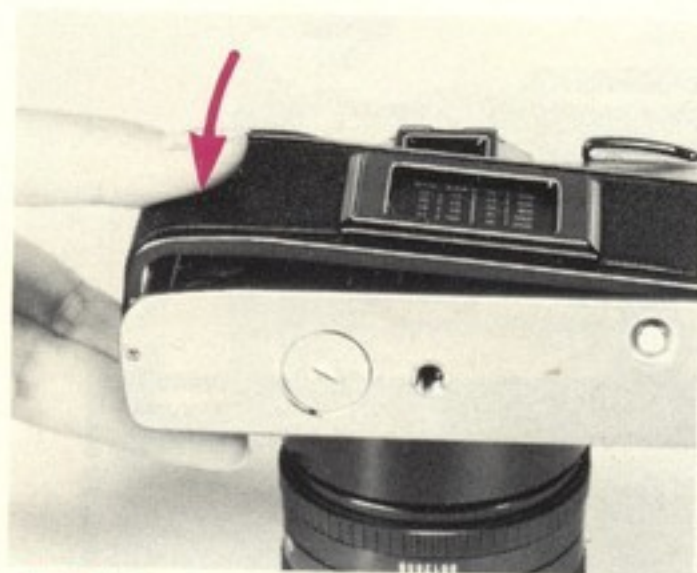


- フィルムをスプール爪に差し込むときは、左のイラストに示すように正しく差し込んでください。

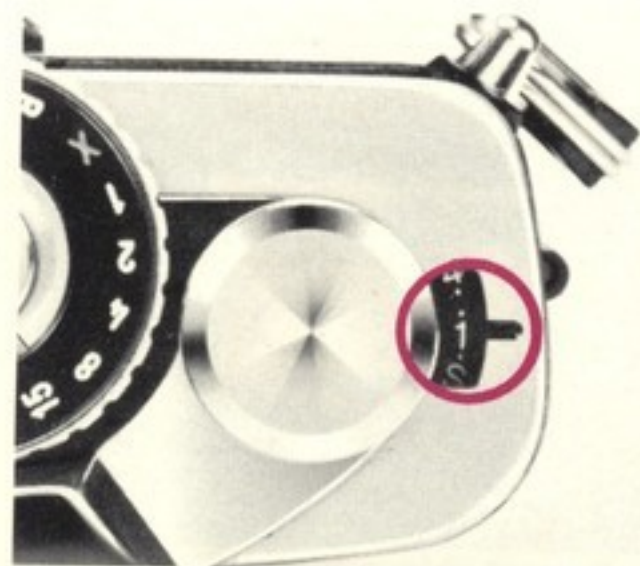
暗い所やレンズキャップをつけたままでシャッターを切る場合、シャッターダイヤルをXにセットしてください。



4 フィルムを少し巻上げます
フィルムのパーフォレーション(両側の穴)がスプロケットの歯にかみ合うまで巻上げレバーを操作します。



5 裏ぶたを静かに閉じます
フィルムのパーフォレーションがスプロケットにかみ合っているか、また、上下のガイドレールの上にフィルムが正しく置かれているかを確認してから裏ぶたを静かに閉じます。



6 フィルムカウンターを1にします
フィルムを巻上げてシャッターを切り、もう一度巻上げますと、フィルムカウンターは1になり撮影可能状態となります。

●フィルムシグナルが出ていればフィルムは確実に送られています。

フィルムシグナル

フィルムの装てん、巻上げ、巻きもどしの状態がフィルムシグナルでわかります。



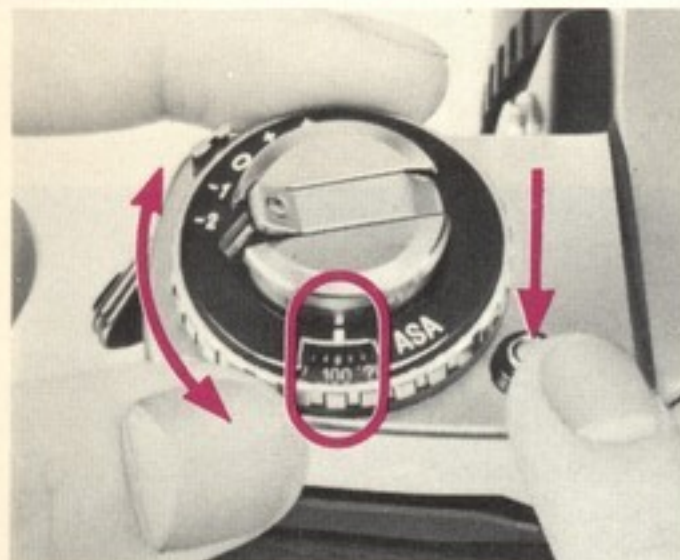
フィルムを装てんし、裏ぶたを閉じて巻上げて、フィルムカウンターが1前後になったときにフィルムシグナルが窓の左側に出てくれば、フィルムは正しく巻取られています。フィルムを巻上げるにしたがって、フィルムシグナルは左側から右側へ移動します。

●フィルムがはいっているか、はいっていないかの確認はフィルムシグナルを見ればひと目でわかります。

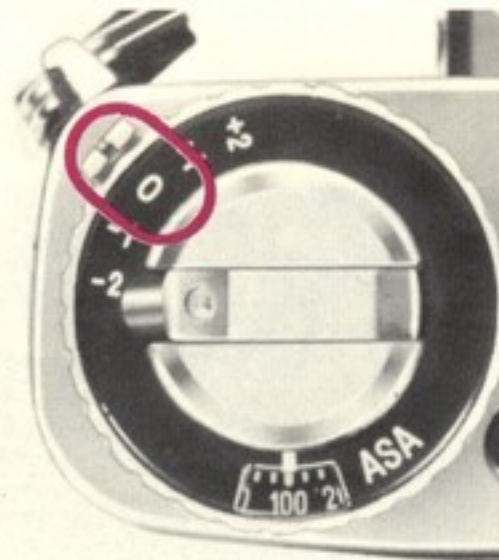
★フィルムが装てんされているかを巻きもどしノブを回して確認すると、画面間隔が不ぞろいになることがあります。

フィルム感度目盛の合わせ方

フィルムを入れた後は、必ず使用するフィルムのASA感度をセットしてください。
フィルム箱には必ず **ASA** と記入されていますので、その数値をセットします。



フィルム感度ダイヤルロックボタンを押しながら、フィルム感度ダイヤルを回してフィルム感度表示窓の指標に使用フィルムのASA感度をセットします。



- フィルム感度をセットしたとき、露出補正レバーが0位置にセットされているかを確認してください。

★フィルム感度のセットは露出の基準となるものですから、まちがいのないよう確実にセットしてください。



使用フィルムの箱のふたを切り取りメモホルダーに差し込んでおけば、撮影中のフィルムの種類や枚数がひと目でわかりますので、ご利用ください。

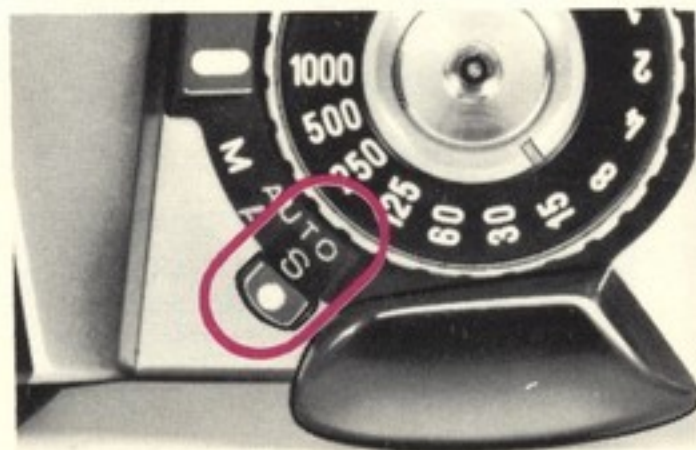
自動露出撮影のしかた

撮影モードの選択

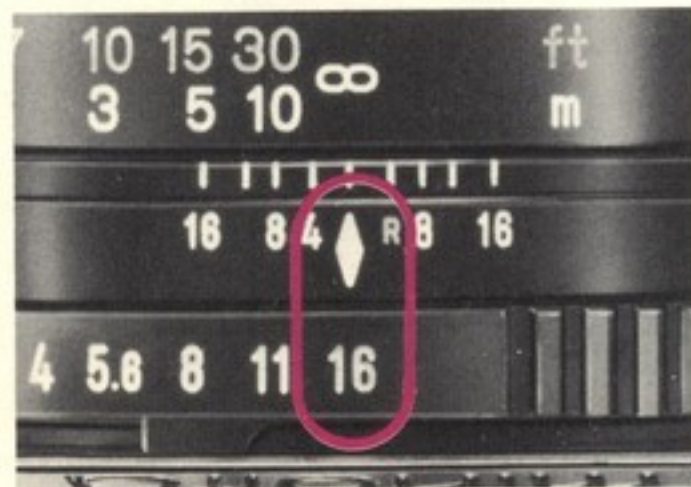
XDとMDレンズを組み合わせて使用すればモードを切り換えるだけで、一台のカメラで速度優先の自動露出撮影、速度優先超自動露出撮影、および絞り優先の自動露出撮影ができます。

Sモード（速度優先自動露出撮影——シャッター速度を先に決めて自動露出撮影するとき）

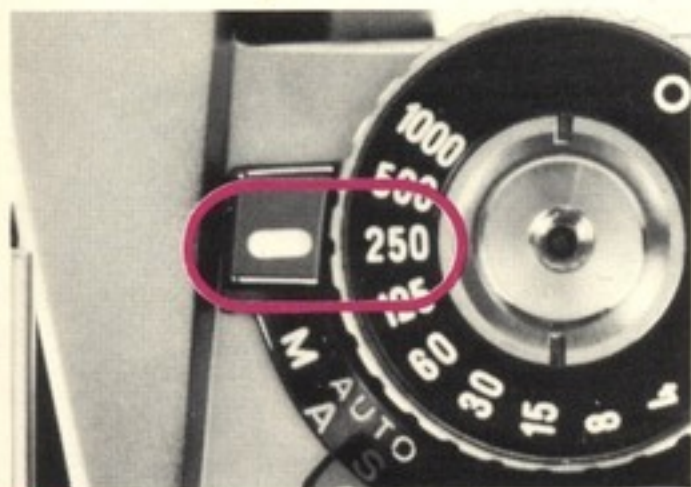
スポーツ写真のように動きのある被写体の動感を表現するときに、低速シャッターで被写体をブラしたり、あるいは高速シャッターで被写体を静止させたい場合にはSモード（速度優先自動露出撮影）を使用します。Sモードではセットしたシャッター速度と被写体の明るさに応じて自動的に絞りが調節され、適正露出がえられます。また、そのときの適正絞り値はファインダー内に表示されます。



- 1 撮影モード切換レバーをSにします。
 - 撮影モード切換レバーは必ずクリックの位置にセットしてください。クリック以外の中間位置では使用できません。



- 2 レンズの絞りを最小絞り（緑色表示）のF16にセットします。
 - 最小絞り以外の絞りにセットしますと、ファインダー内に適正絞り値を示すLED表示（●）は出ません。



3 シャッターダイヤルを回して希望するシャッター速度にセットします。

- と1000の間は回転できません。
- セットしたシャッター速度がファインダー内で確認できます。
- XDの自動露出連動範囲は右表のようにフィルム感度によって異なります。



4 構図を決めてピントを合わせます。

XDの自動露出連動範囲

A S A	自動露出で利用できるシャッター速度
100以下	1～ $\frac{1}{1000}$ 秒
200	$\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒
400	$\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒
800	$\frac{1}{8}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒
1600	$\frac{1}{15}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒
3200	$\frac{1}{30}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒



5 シャッターボタンを押して撮影します。

誰もが写せる超自動露出撮影

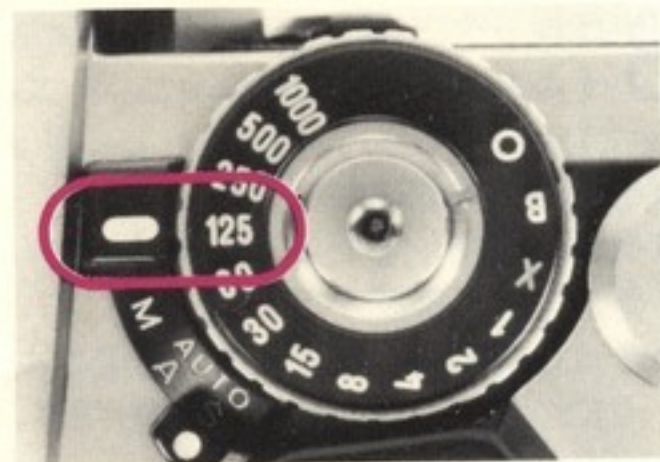
(シャッター速度優先超自動露出方式)

- シャッターボタンを軽く押したときファインダー内のLEDが点灯して自動露出の絞り値を示します。
- LEDが同時に2個点灯したときは、中間の絞り値を示しています。
- ▲または▼の点灯はセットしたシャッター速度が自動的に速い方または遅い方に適正露出を与えるために補正されることを示します。そのまま撮影しても適正露出がえられます。(詳しくは応用操作編のP38を参照してください。)

XDの性能を十分に活用するためには必ずボディ特性に適合した交換レンズをお使いください。このカメラに適した交換レンズはミノルタMDロッコールレンズです。MCロッコールレンズをご使用のときはAモードおよびMモードは使用できますが、Sモードは使用できません。

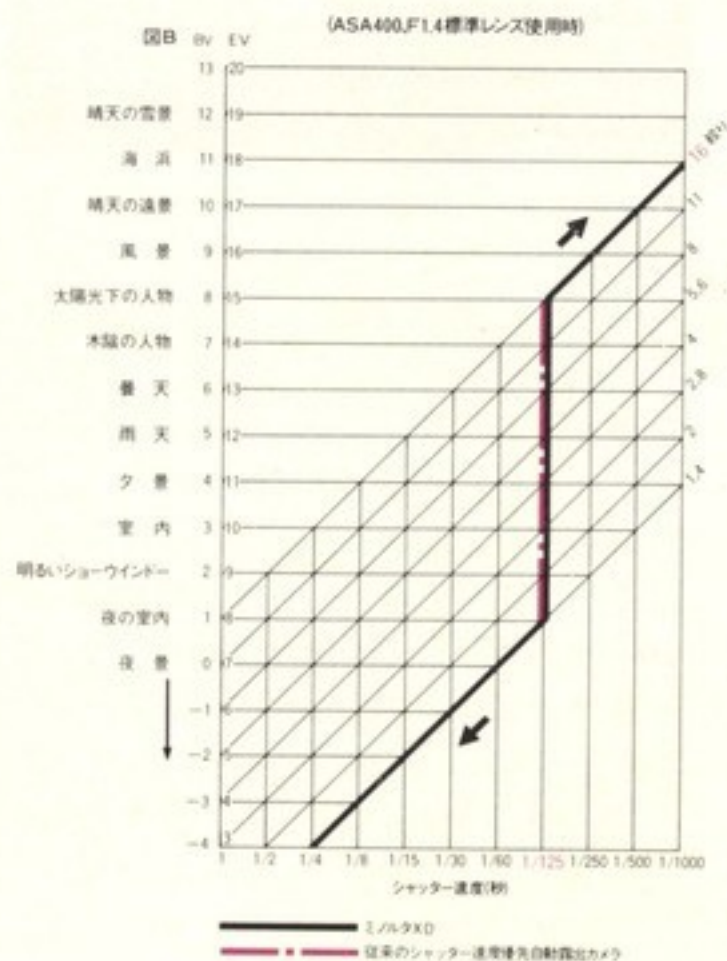
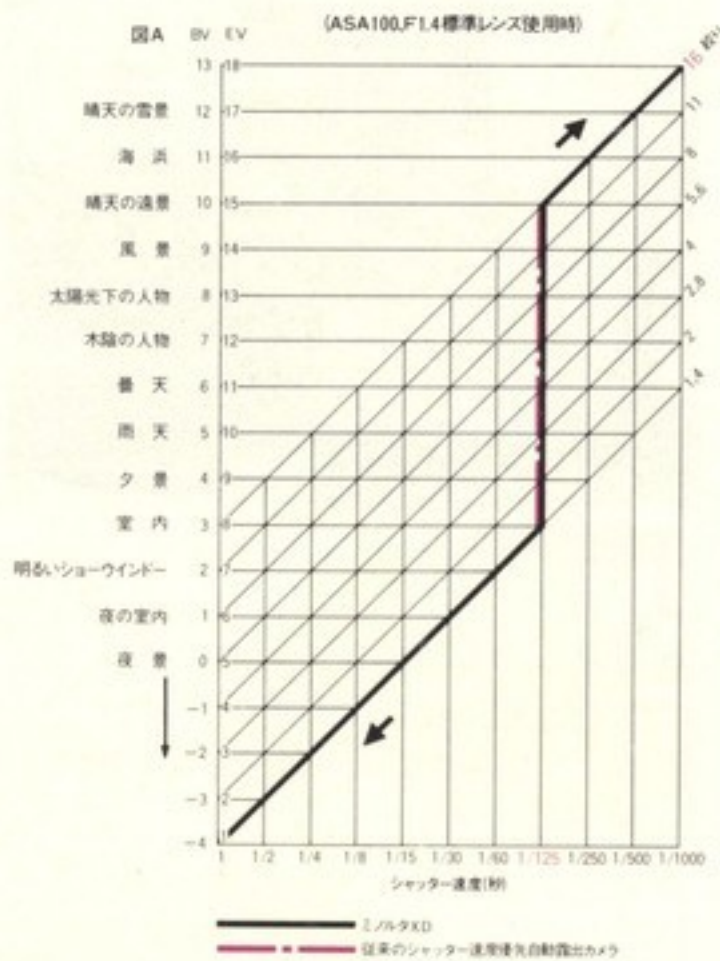
Sモードの超自動露出機能によって、露出操作の苦手な初心者の方や露出合わせがわずらわしい方にも、一般的なファミリー写真やスナップ撮影はもちろん、晴天の雪景色から夜景までほとんどの被写体を自動露出撮影することができます。撮影手順は次の1～5でOKです。

- 1 フィルムの感度を合わせます。
 - 2 撮影モード切換レバーをSにします。
 - 3 レンズの絞りを最小絞り(緑色表示)にします。
 - 4 シャッター速度は標準レンズ(広角レンズ)を使用する場合 $\frac{1}{25}$ 秒、望遠レンズを使用する場合は $\frac{1}{25}$ 秒より高速にセットします。
 - 5 ピントを合わせ、シャッターを切ります。
- この方法は、急を要する報道・記録写真関係の方にもおすすめします。



従来の一般的なシャッター速度優先AEは、たとえばシャッター速度を $\frac{1}{250}$ 秒にセットした場合、図Aのように「開放↔最小絞り」の連動範囲内でしか自動露出撮影ができませんので連動範囲外になればあらためてシャッター速度をセットし直すわずらわしさがありました。ミノルタXDの「シャッター速度優先超自動露出方式」は、「開放↔最小絞り」の連動範囲外になっても図Aのようにシャッター速度が高速側($\frac{1}{250}$ 秒・ $\frac{1}{500}$ 秒)、低速側($\frac{1}{60}$ 秒・ $\frac{1}{30}$ 秒...)にそれぞれ自動的に補正されて、適正露出がえられますのでシャッター速度をいちいちセットし直す必要がありません。セットしたシャッター速度が自動補正される場合はファインダー内に▲、▼LEDで表示します。詳しくは応用操作編のP38を参照してください。

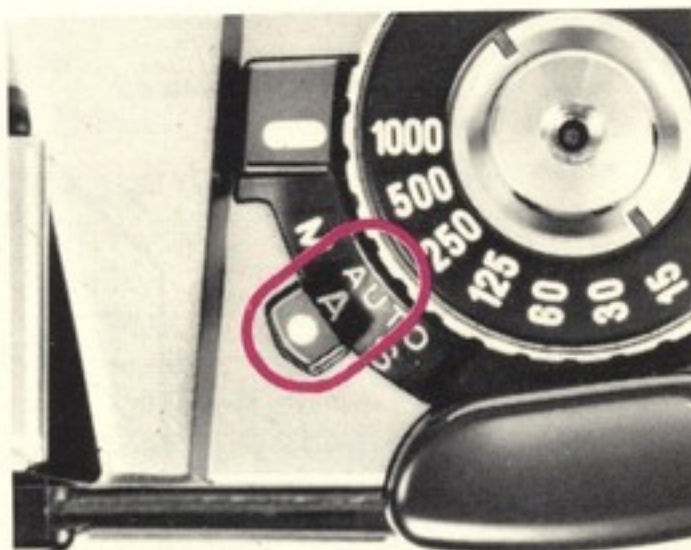
なお、ASA400のフィルムを使用すれば図Bのようにカメラブレなしで自動露出撮影できる暗い被写体の領域が広がります。



Aモード（絞り優先自動露出撮影——絞りを先に決めて自動露出撮影するとき）

ポートレートのように人物を強調して写したいときは、絞りを開いてバックをボかし、風景や静物を撮影するときには絞りを絞り込んで被写体の細部まで描写できます。このような場合はAモード（絞り優先自動露出撮影）を使用します。

Aモードでは、セットした絞り値と被写体の明るさに応じて自動的にシャッター速度が調節され、適正露出がえられます。また、そのときの適正シャッター速度はファインダー内に表示されます。



1 撮影モード切換レバーをAにします。

- 撮影モード切換レバーは必ずクリックの位置にセットしてください。クリック以外の中間位置では使用できません。
- シャッターダイヤルを回して1000～1のいずれかにセットします。Aモードのとき1000～1の数値は、実際のシャッター速度とは関係ありません。



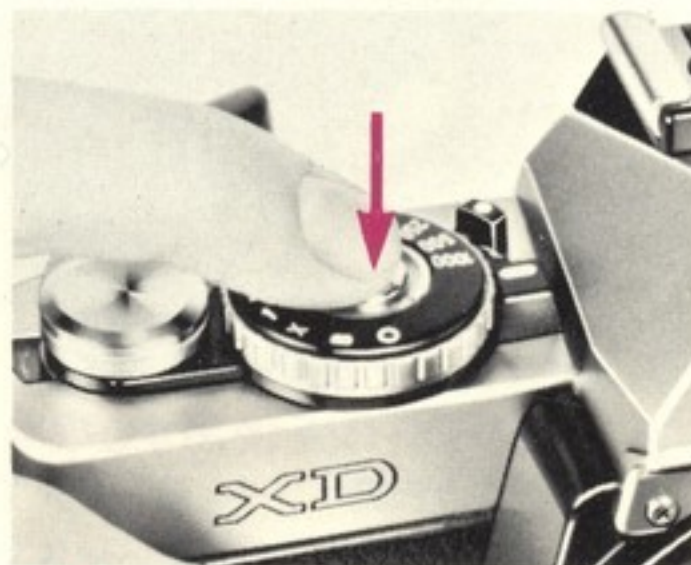
2 レンズの絞りを希望する絞り値にセットします。

ASA100のフィルム使用の場合

撮影条件	絞り値
直射日光下の屋外撮影	16、11、8
曇天または日陰での撮影	5.6、4、2.8
室内撮影または夜の撮影	2.8、1.7、1.4、1.2



3 構図を決めピントを合わせます。



4 シャッターボタンを押して撮影します。

- シャッターボタンを軽く押したとき、セットした絞りに対する適正シャッター速度をファインダー内右側の赤色LED(●)で表示します。

- LEDが同時に2個点灯したときは、中間のシャッター速度を表わしています。
- ファインダー内に▲が点灯したときは、シャッター速度が $\frac{1}{1000}$ 秒以上の高速となり、連動外を示しています。▼が点灯するとシャッター速度が1秒より長秒時となることを示しています。絞りリングを回して●が点灯するようにセットし直してください。詳しくは応用操作編のP39を参照してください。
- 非常に暗いところで▼が点灯したままシャッターを切ると、ミラーが上がったままになることがあります。そのときはシャッターダイヤルを回してX、B、○のいずれかにすればミラーが復元します。

ピント合わせ

ピントはファインダーをのぞきながらレンズの焦点調節リングを回して中央部のスプリットイメージまたはマイクロプリズムまたは周辺のマット面で合わせます。

★撮影されたフィルムをサービスサイズにプリントしたり、リバーサルフィルムをマウントされる場合、その仕上がり画面は原板より若干せばめられますので、撮影に際してはご配慮ください。

ピントが合っている状態



スプリットイメージを使用する場合
レンズの焦点調節リングを回してスプリットイメージの上下の像がズレなくなるようにします。ピントが合っていないとスプリットイメージの上下で像が左右にズレます。

- 開放F値の大きい(暗い)レンズ、あるいは接写のときなどは、中央のスプリットやマイクロプリズムではカゲリが生じてピントが合わせにくいことがあります。そのときは周辺のマット面でピント合わせをしてください。

ピントが合っていない状態



マイクロプリズムおよびマット面を使用する場合

レンズの焦点調節リングを回して、マイクロプリズムでの像のちらつきがなくなるようにします。また、マット面を使用する場合は像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないと、マイクロプリズムでは像がちらつき、マット面では像がボケます。

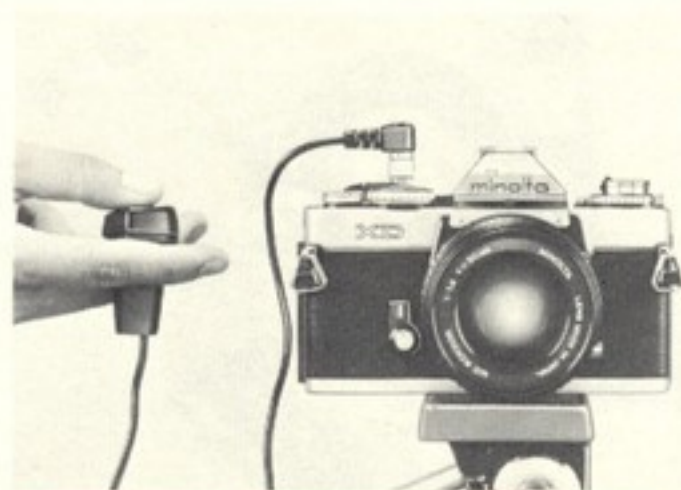
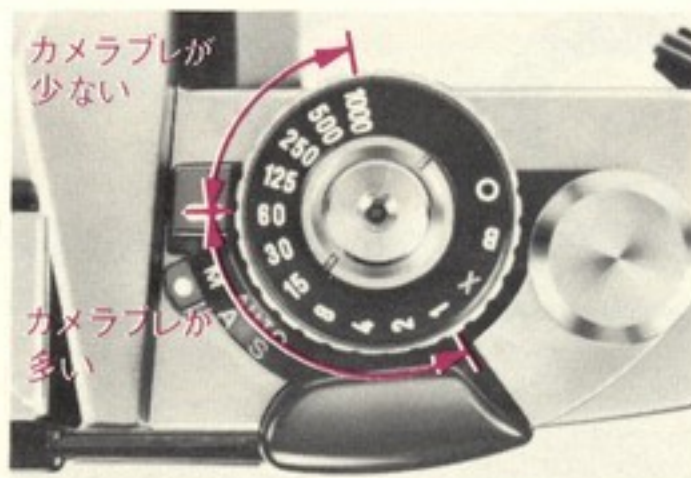
シャッターの切り方

シャッターボタンを押すと、シャッターが開いてフィルムを露光します。シャッターボタンは、カメラブレを起こさないように指先の腹で静かに押してください。

XDのリリースは電磁リリースを採用していますので、よりなめらかにシャッターが切れます。

一般的に50mm標準レンズ装着時、手持ち撮影では $\frac{1}{60}$ 秒以上の高速シャッターをご使用ください。 $\frac{1}{30}$ 秒より低速のシャッター速度ではカメラブレが起こりやすいので、手持ち撮影はなるべく避けて、カメラを三脚などで固定してシャッターを切ってください。

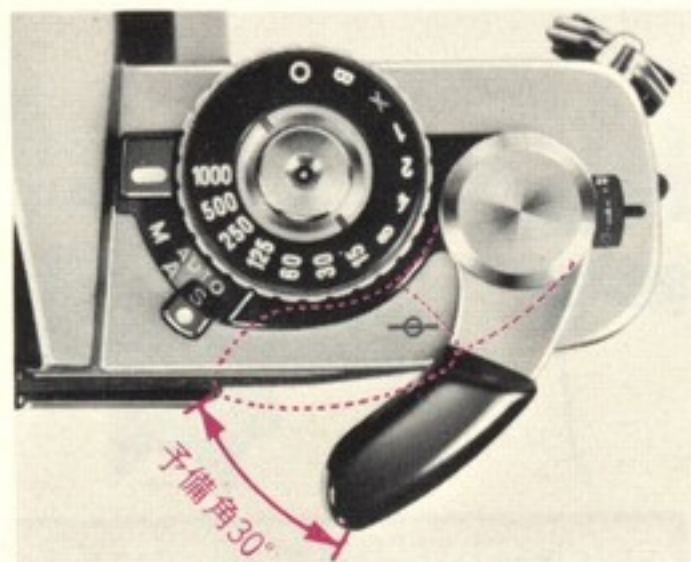
カメラを三脚に取りつけて撮影するときは、リモートコードやケーブルリリースIIをご使用ください。



XDは電磁リリースを採用していますので、リモートコードが使用でき、遠隔操作のときに便利です。

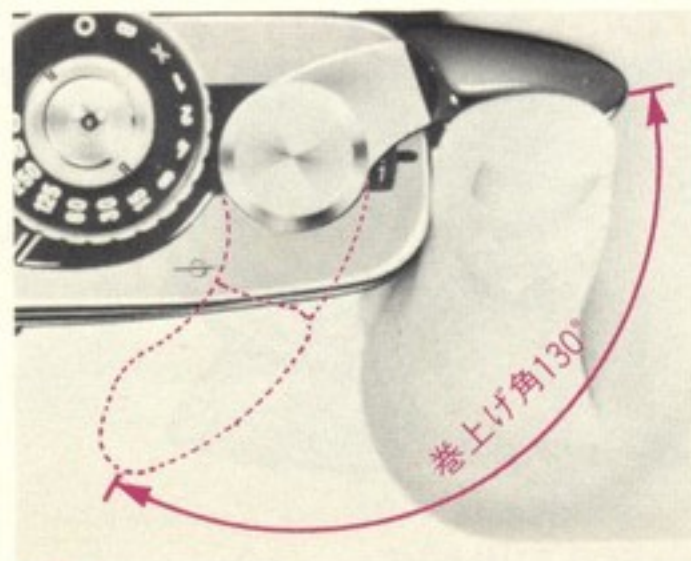
★XDの三脚ネジ穴の深さは6.3mmです。三脚を使用するとき、三脚取付ネジ穴の深さより長い三脚ネジを使用すればカメラの内部機構を破損するおそれがありますのでご注意ください。

フィルム巻上げ



1 巻上げレバーを格納位置から軽く引き出します。

- 指がかけやすい状態となり、巻上げが迅速にでき、何枚も連続して写すときにも便利です。



2 巻上げレバーに指をかけ、右方へ止まるまで回します。

- これで、フィルムが1コマ分送られ、フィルムカウンターが1目盛進みます。

- 巻上げは一作動式ですので小刻み巻上げはできません。巻上げの途中で指を離しますと巻上げレバーは元にもどってしまいます。最後まで巻上げられてないときはシャッターは切れません。
- シャッターボタンを押したまま巻上げると、巻上げレバーが元にもどると同時にシャッターが切れます。

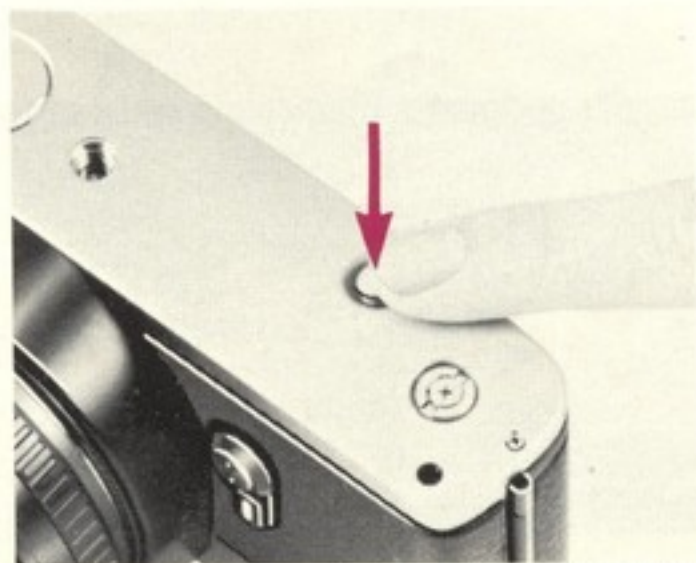
★フィルムの終りで、巻上げレバーが途中で動かなくなったときは無理に巻上げないでください。無理に巻上げるとフィルムが切れてしまうこともあります。P 30の要領で巻きもどしてください。

X Dに装着するとフィルム巻上げが自動的にできるオートワインダーDが専用付属品として用意されています。撮影者は巻上げ操作から解放されますので、作画に専念できるばかりでなく、カメラは常にフィルム巻上げ完了状態で停止しており、シャッターが切れるとすぐに次の巻上げが行なわれますので、機を逃がさず撮影ができ、シャッターボタンを押し続けると1秒間約2コマの連続撮影もできます。詳しくはオートワインダーDの使用説明書をご覧ください。

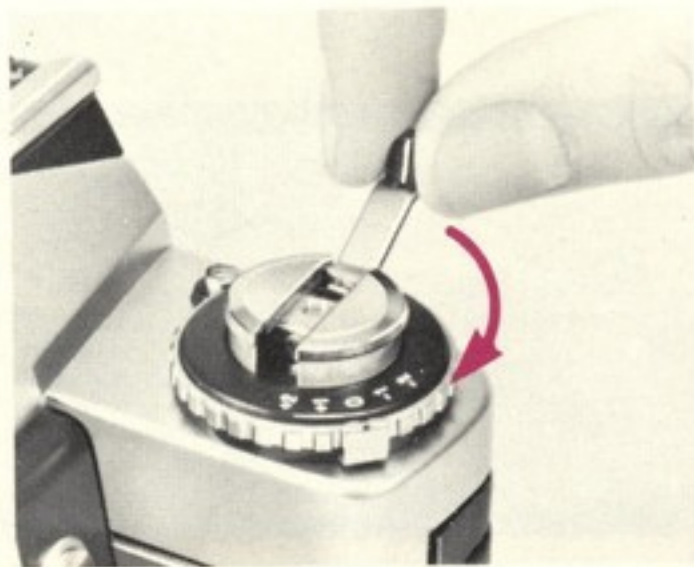


フィルムの巻きもどし

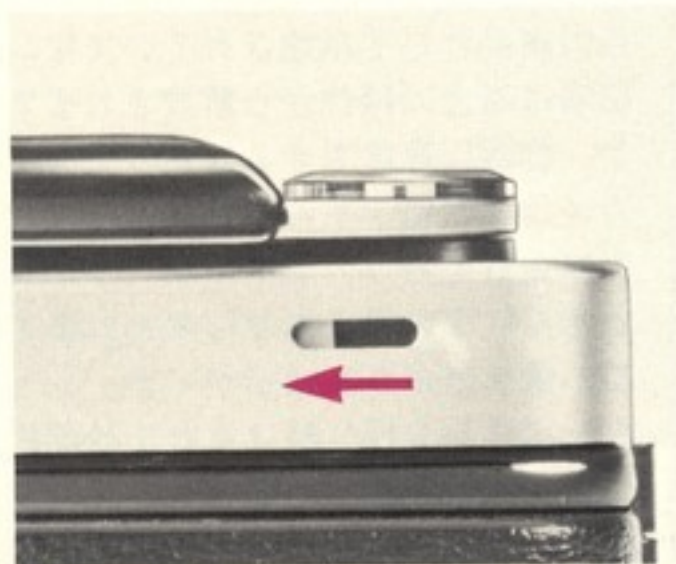
撮影の終わったフィルムは次の要領で巻きもどして、取り出してください。



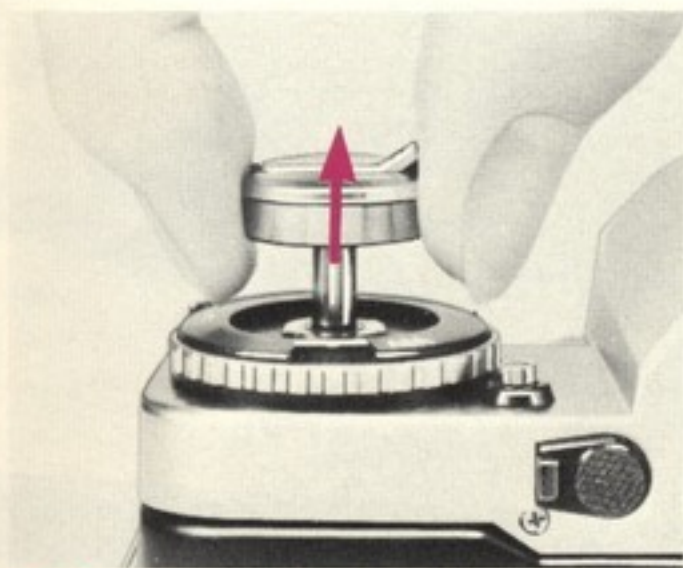
1 カメラ本体の下側にある巻きもどしボタンを押します。



2 巻きもどしクランクを起こし、巻きもどしクランクにある矢印方向に回しますと、フィルムはパトローネ内に巻きもどされます。



●このとき、フィルムシグナルはフィルムが巻きもどされるにしたがって、右側から左側へ動きます。フィルムの巻きもどしが完了すれば、フィルムシグナルが見えなくなります。

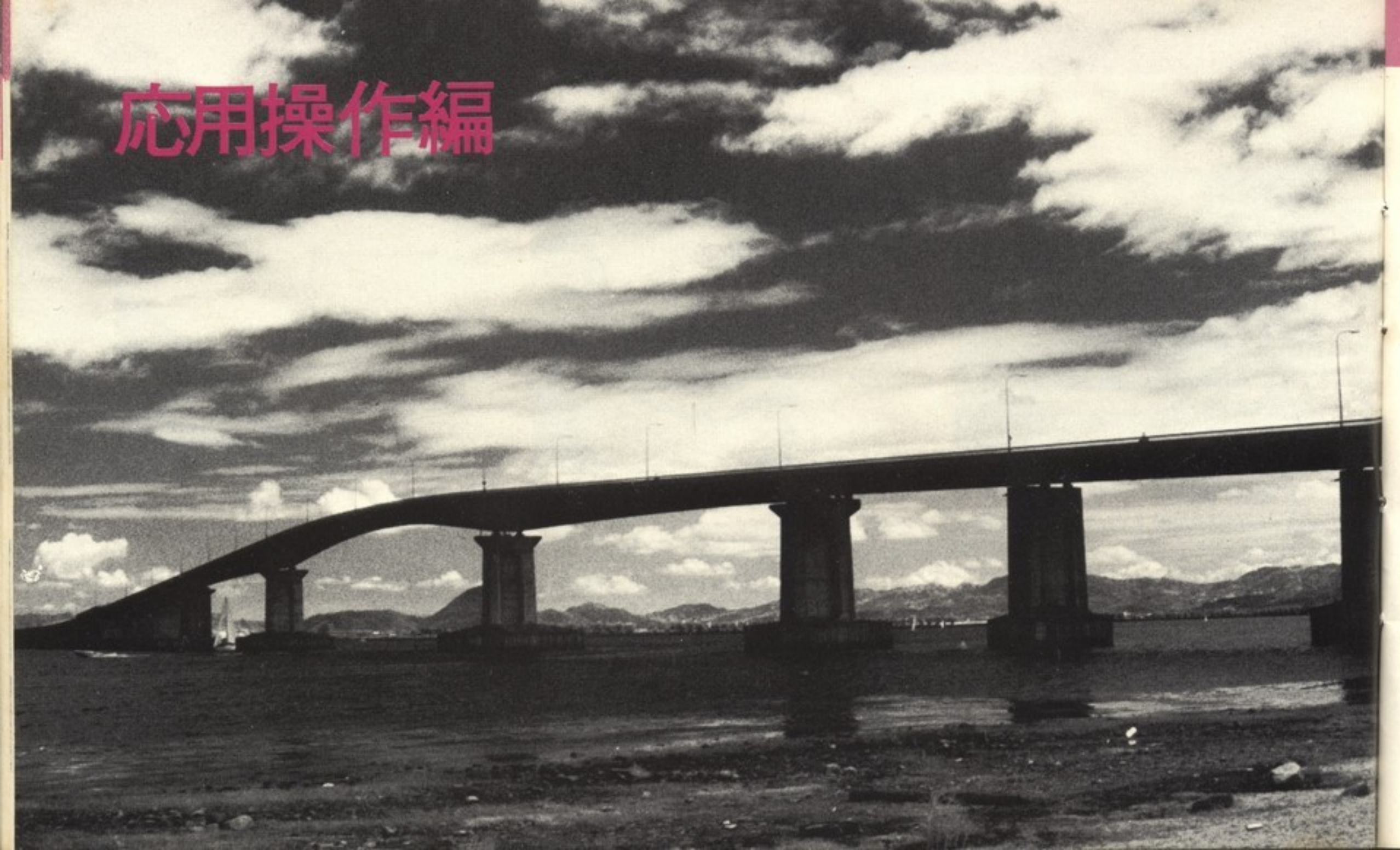


3 裏ぶた開閉ノブを引き上げて裏ぶたをあけ、パトローネを取り出します。

★巻きもどしが終わるまで(フィルムシグナルが出ているとき)裏ぶたを絶対にあけないでください。誤ってあければフィルムの一部が感光してしまいます。

★取り出したパトローネは明るいところへ放置しないでください。パトローネは完全にしゃ光できるものは少なく、長く放置すると感光することがあります。

応用操作編



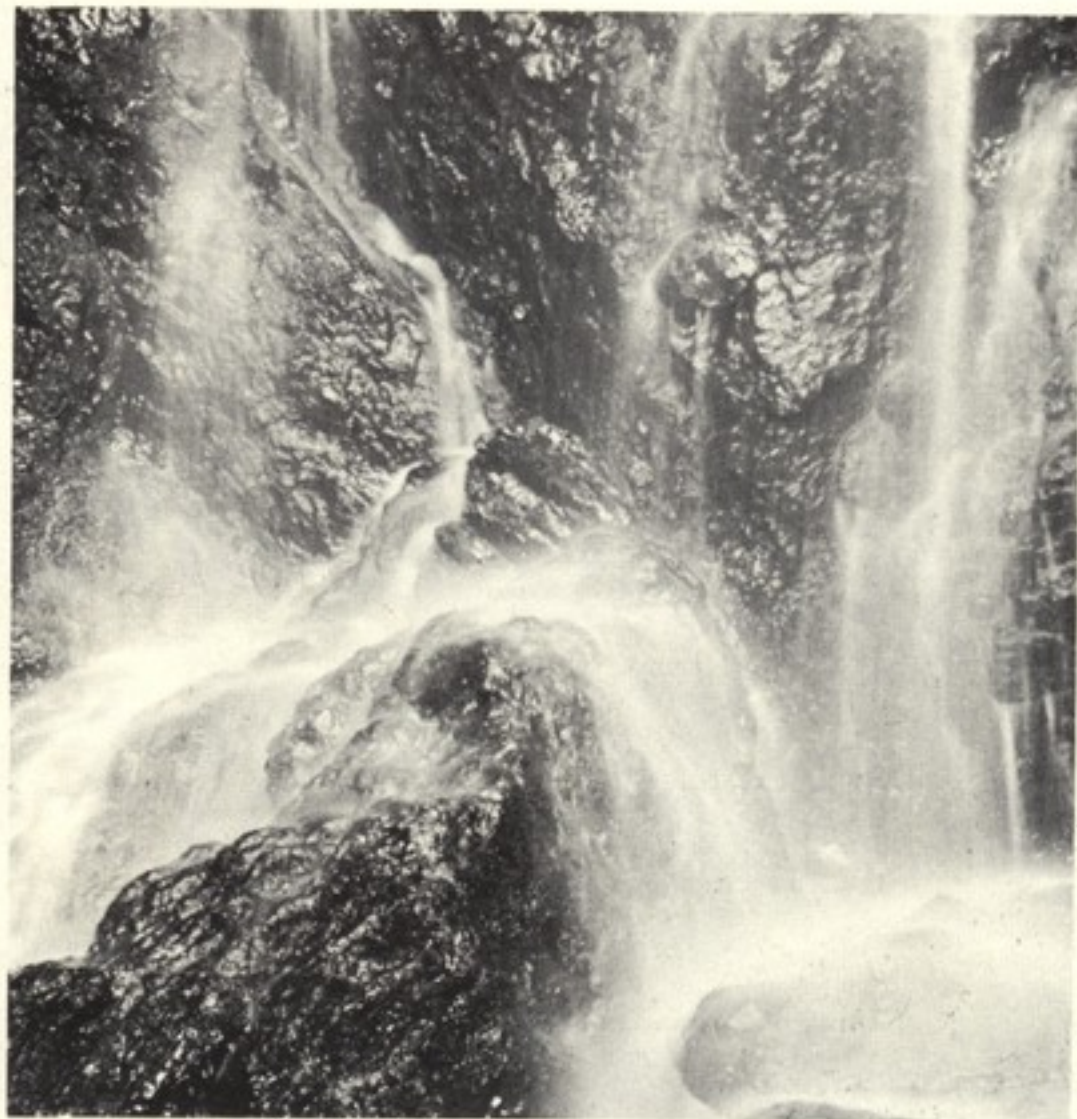
自動露出(AUTO)撮影の例

Sモード(速度優先自動露出撮影)の場合

(P 20~22参照)

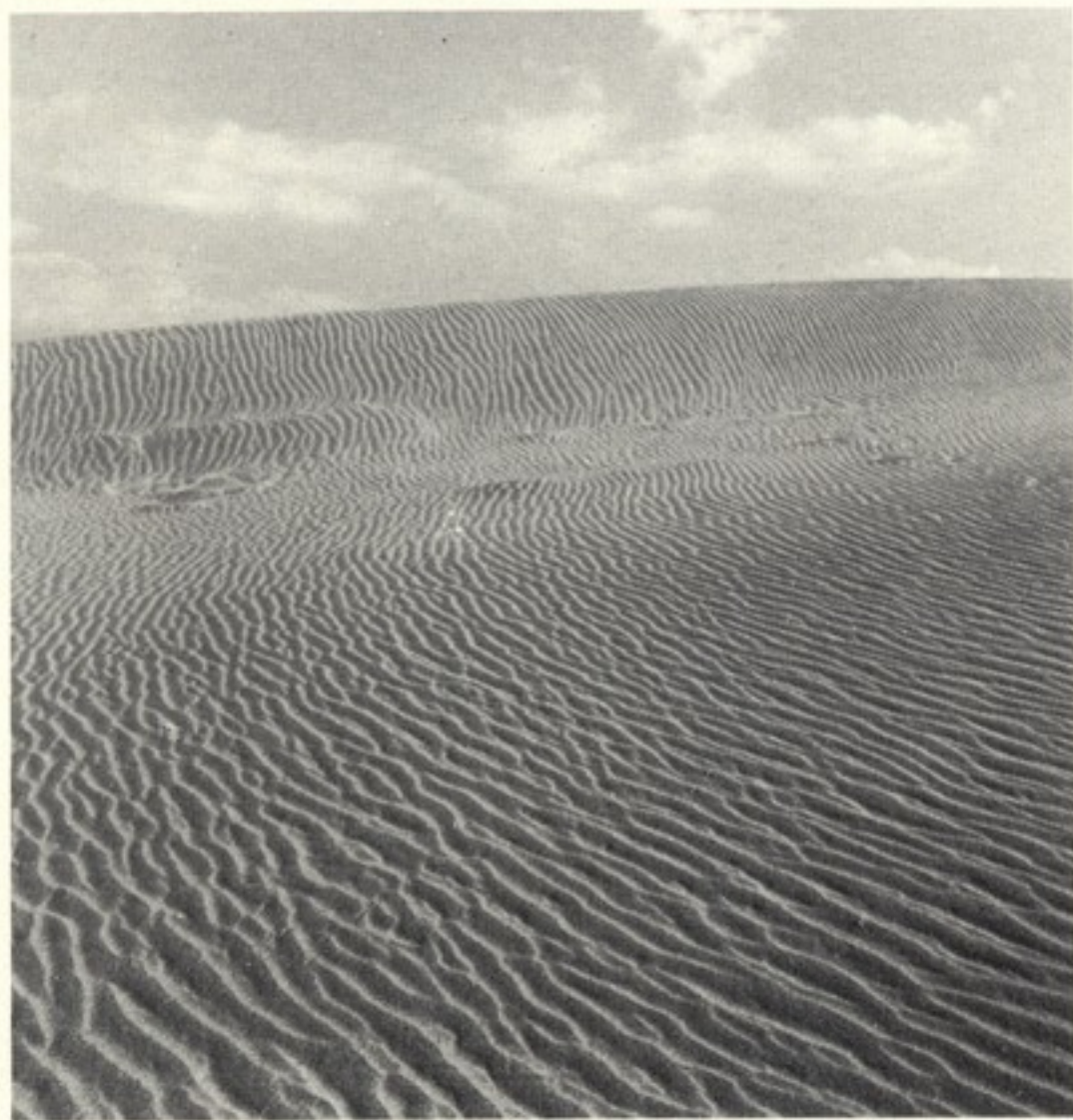


Sモード $\frac{1}{1000}$ 秒 200mm



Sモード 1秒 100mm

Aモード(絞り優先自動露出撮影)の場合 (P 24~25参照)



Aモード F16 28mm



Aモード F8 50mm



Aモード F1.4 50mm

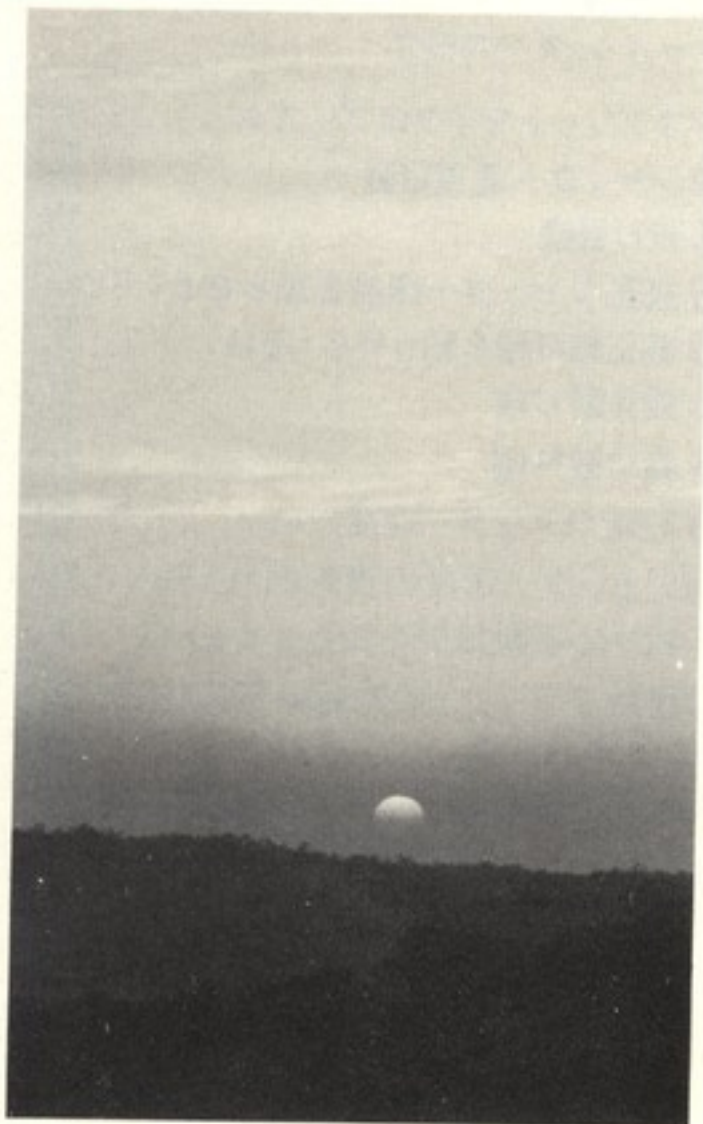
誰もが写せる超自動露出撮影の場合 (P 22~23参照)



Aモード F11 マクロ100mm



Sモード $\frac{1}{125}$ 秒 24mm



Sモード $\frac{1}{125}$ 秒 50mm

各撮影モードに対応するファインダー

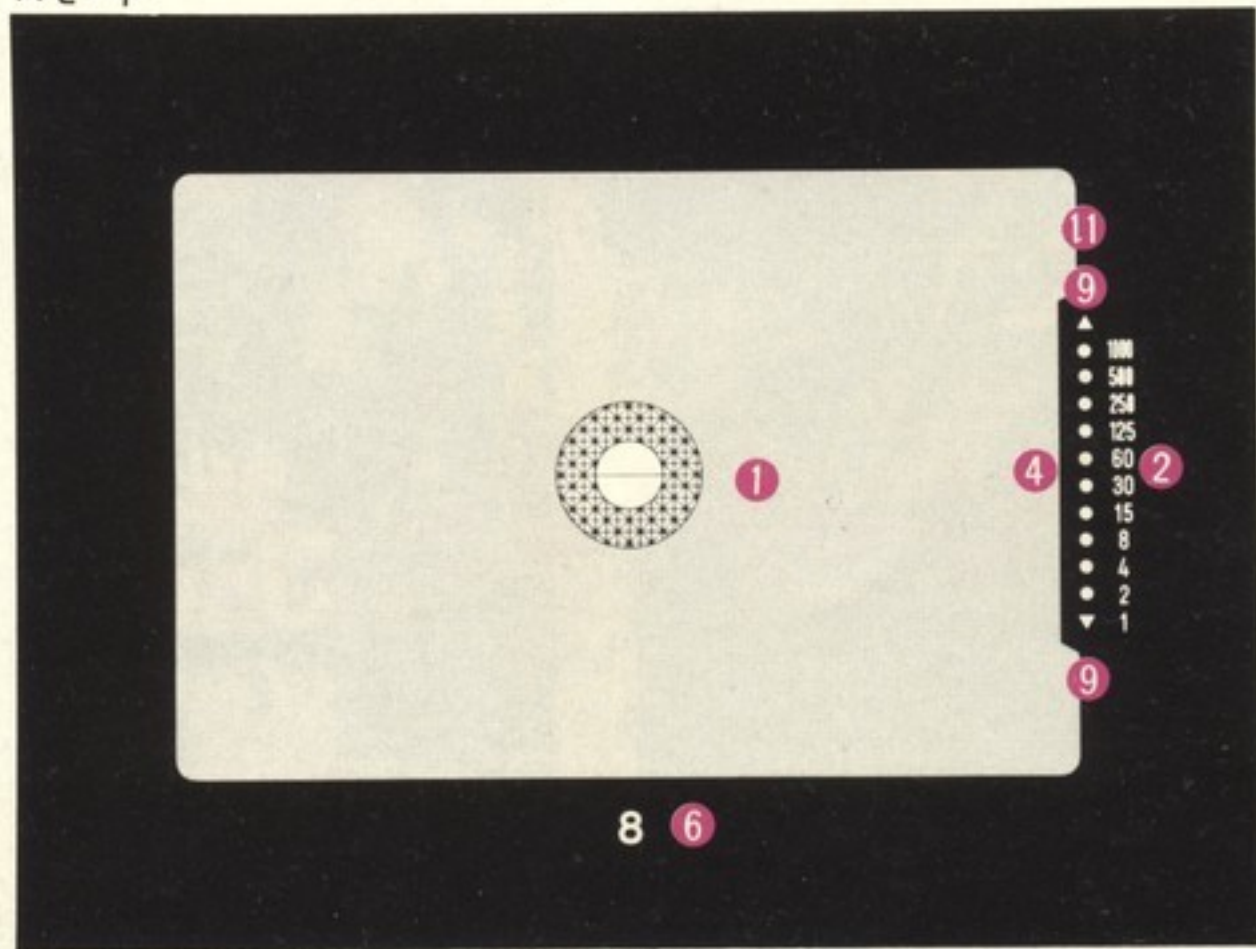
XD は各撮影モードによってファインダーの撮影情報が変化し、常に撮影に必要な露出情報がえられます。

ファインダー内表示

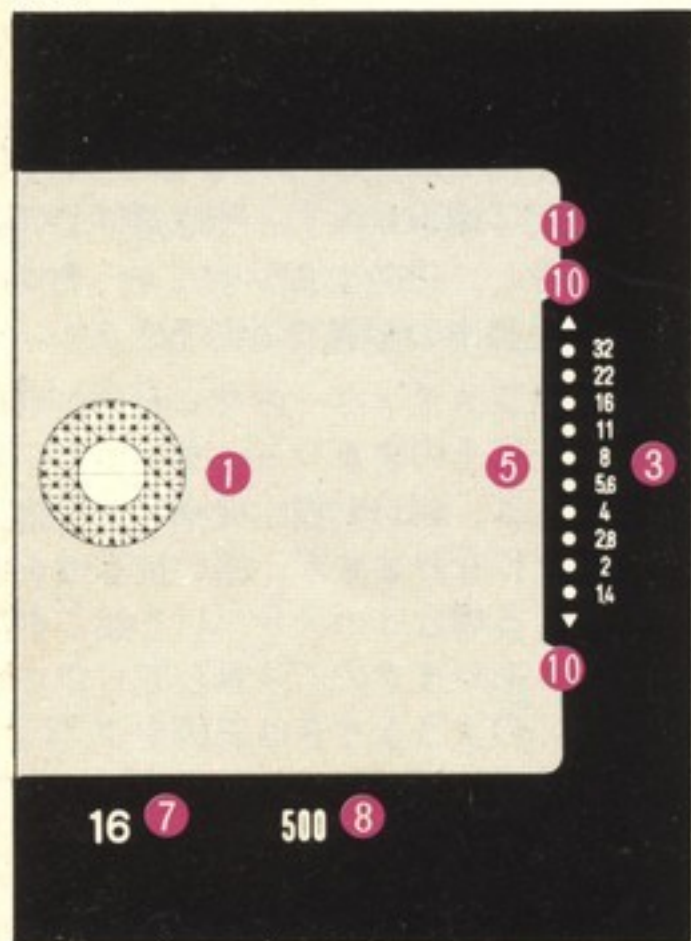
- ① スプリットマイクロプリズム
- ② シャッター速度目盛
- ③ 絞り目盛
- ④ 適正シャッター速度を知らせるLED
- ⑤ 適正絞り値を知らせるLED
- ⑥ 設定絞り値
- ⑦ 最小絞り値
- ⑧ 設定シャッター速度
- ⑨ シャッター速度の連動域外を知らせるLED
- ⑩ 絞りの連動域外を知らせるLED
- ⑪ 専用フラッシュの充電完了を知らせるLED

- XD に使われているフォーカシングスクリーンのマット面は、従来のフォーカシングスクリーンのマット面に比べて最高約50%も明るくなっています。さらにコントラストや透明度も高く、すばやく正確なピント合わせができます。

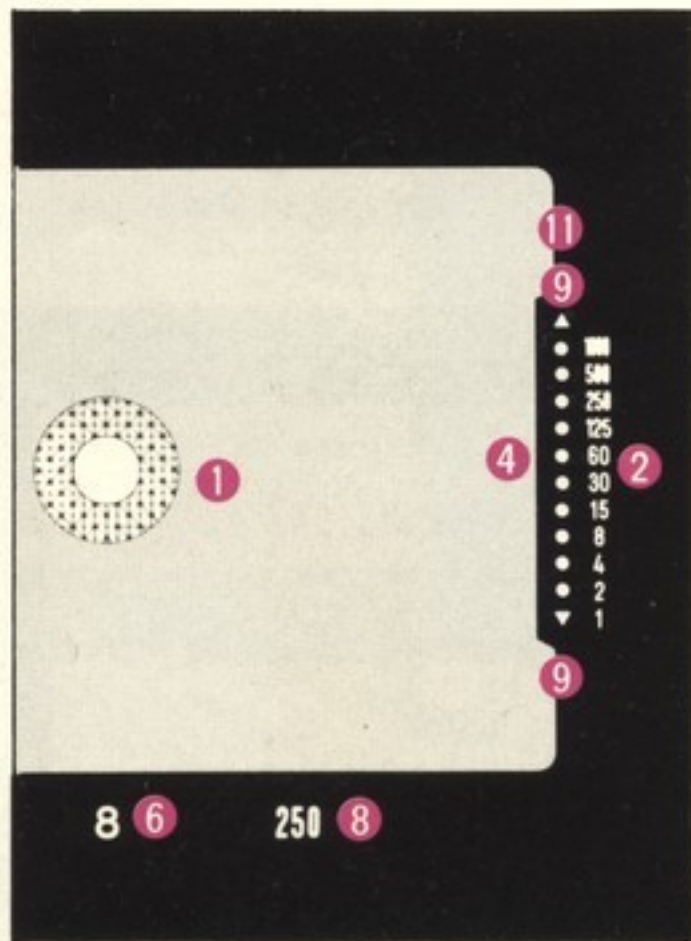
Aモード



Sモード



Mモード



▲と▼マークについて (自動露出撮影の場合)

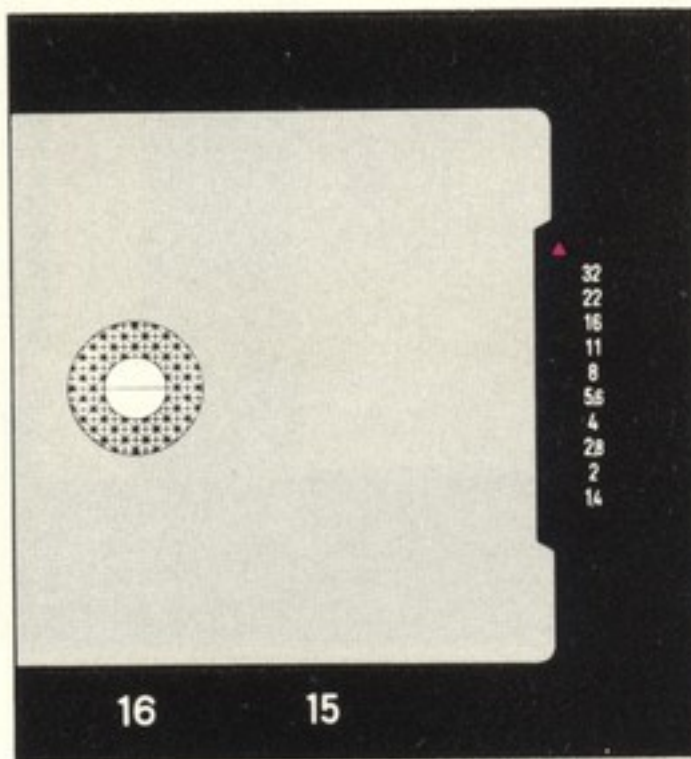
Sモードの場合

▲が点灯したとき

Sモードでは、撮影者のセットしたシャッター速度をもとにして、絞りが明るさに応じて変化し、適正露出を与えます。もし、使用レンズの最小絞りにきても、まだ適正露出がえられないときには、セットしたシャッター速度より速いシャッター速度にカメラが自動的に補正します。▲点灯はこのことを示し、このままシャッターを切ると、適正露出の写真が撮影できます。

- 撮影したシャッター速度を記録にとどめておかなければならない場合など、実際のシャッター速度を知りたいときは、シャッター速度を高速側にセットし直して、●が点灯するように調整します。

- Sモードでの自動露出連動範囲はASA100フィルム使用のとき、EV1～EV18(F1.4 1秒～F16 1/1000秒)です。このうち、セットしたシャッター速度で絞りが連動するときは●が点灯します。



▼が点灯したとき

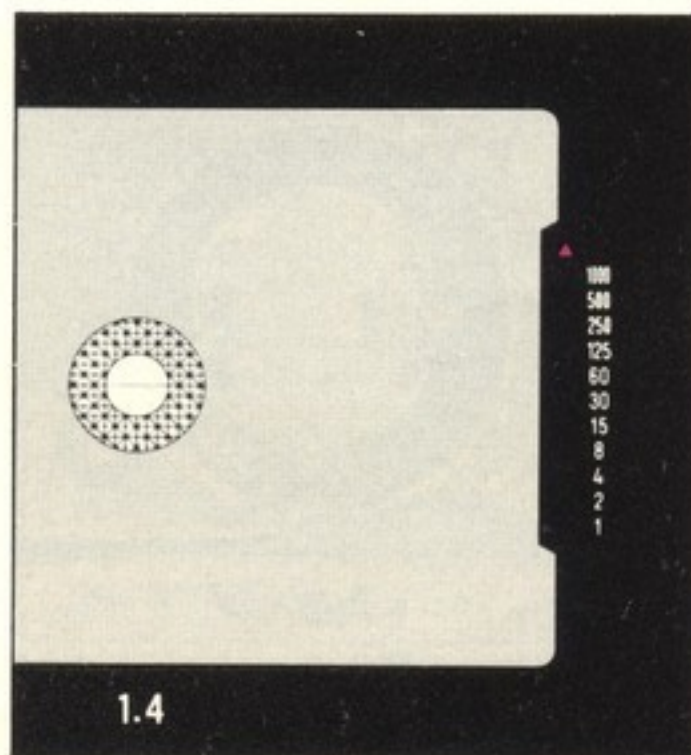
使用レンズの開放絞りでも、撮影者のセットした速度では露出が不足する場合には、カメラがセットしたシャッター速度より遅いシャッター速度に自動的に補正します。▼点灯はこのことを示し、このままシャッターを切ると適正露出の写真が撮影できます。

- ファインダー内▼LEDが点灯してもそのままシャッターボタンを押せば、超自動露出機構により適正露出になりますが、暗い被写体を撮影する場合はカメラブレを起こすことがありますので注意してください。そのようなときは三脚やフラッシュをご使用ください。(P23のグラフ参照)

Aモードの場合

▲が点灯したとき

セットした絞り値に対して、被写体が明るすぎて、シャッター速度が自動露出連動範囲（高速側 $\frac{1}{1000}$ 秒）を越えることを示しています。このままシャッターを切ると露出オーバーの写真になりますので、必ず絞り値をさらに小絞り側にセットし直して●が点灯するように調整します。



▼が点灯したとき

セットした絞り値に対して、自動露出のシャッター速度が1秒、および、それより長い速度になることを示しています。このままシャッターを切っても写真は撮影できますが、1秒を越えるシャッター速度に対しては露出の正確さは保証されません。

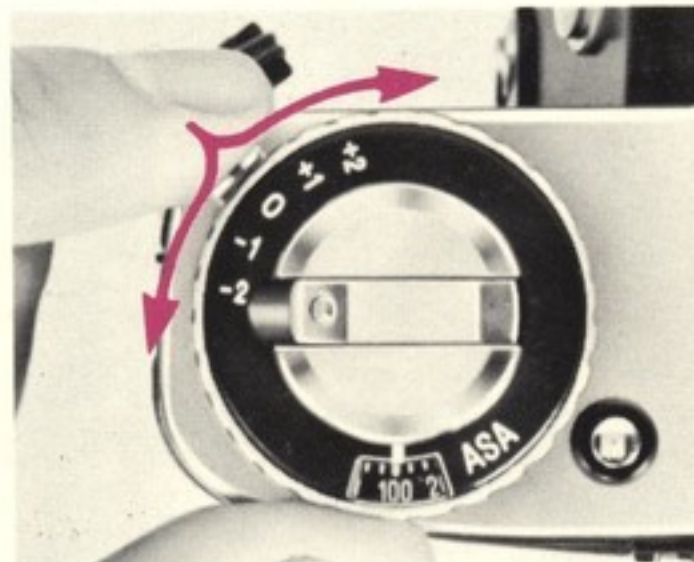
絞りを開放側にセットし直して●が点灯するように調整してください。

- 一般に手持ち撮影でカメラブレを起こさないために、シャッター速度は $\frac{1}{50}$ 秒が限度です。それ以下のシャッター速度の場合はフラッシュ撮影をするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

露出補正について

露出補正レバー

自動露出撮影(Sモード、Aモード)で主要被写体の周囲の画面が非常に明るかったり(逆光など)、暗かったり(舞台など)する場合、または、意図的にハイキーやローキーの写真を撮影する場合に露出補正レバーを使用します。露出補正レバーの操作により測光標準値に対してオーバー側、アンダー側とも2段階まで補正できます。



露出補正レバーを内側へ押しながら、標準レベルより露出オーバーにしたいときは+側へ、露出アンダーにしたいときは-側へ回します。

- セットしたASA感度目盛により露出補正できる範囲が表のように変わります。

ASA感度目盛	露出補正できる範囲
12	-2~0
25	-2~+1
50~800	-2~+2
1600	-1~+2
3200	0~+2

- ロックは-2、-1、0、+1、+2の位置にありますが、ロックのない中間も無段階に使用できます。
- 1、-2および+1、+2という数字は絞り目盛、またはシャッター速度目盛の1段、2段の違いを表わします。
- Sモードのときは自動絞り値を、またAモードのときはシャッター速度をそれぞれ補正します。
- 撮影後は露出補正レバーを必ず0位置にもどしてください。

※特に複写用フィルムの場合は、撮影状況や現像条件、フィルム乳剤番号によって結果が変わりますので+1~+2の露出補正でも補正しきれない場合があります。実際にテスト撮影して確認してから撮影することをおすすめします。

露出補正の例

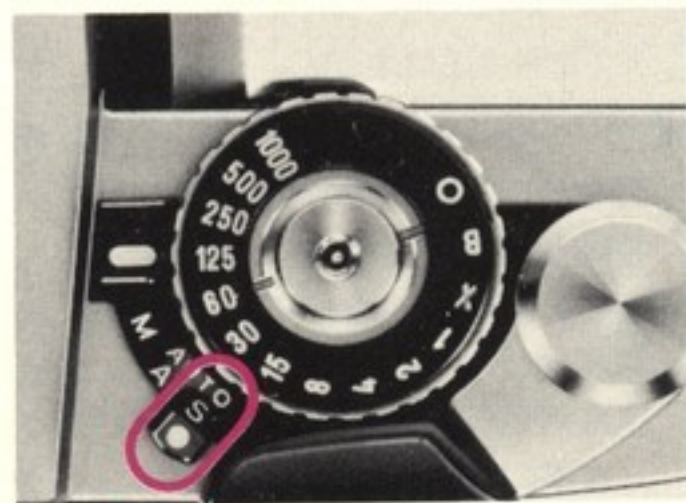
被写体	露出補正量(露出補正レバーの位置)
逆光のポートレート	+1~+2
空のたくさんはいった風景	
雪上の人物	+1 (画面の中の雪や海の部分が少ないときは、補正しなくてもかまいません)
海をバックに入れた人物	
スポット光を浴びた人物	-1~-2
バックが暗いとき	
白い紙に黒い文字の複写	+1~+2 (この場合、被写体によって異なりますので、実際にテスト撮影してから補正値を決めることをおすすめします ※)

★R60(整色用)のフィルターを取り付けて撮影する場合は+1段の露出補正をしてください。

Sモードの特殊な使い方

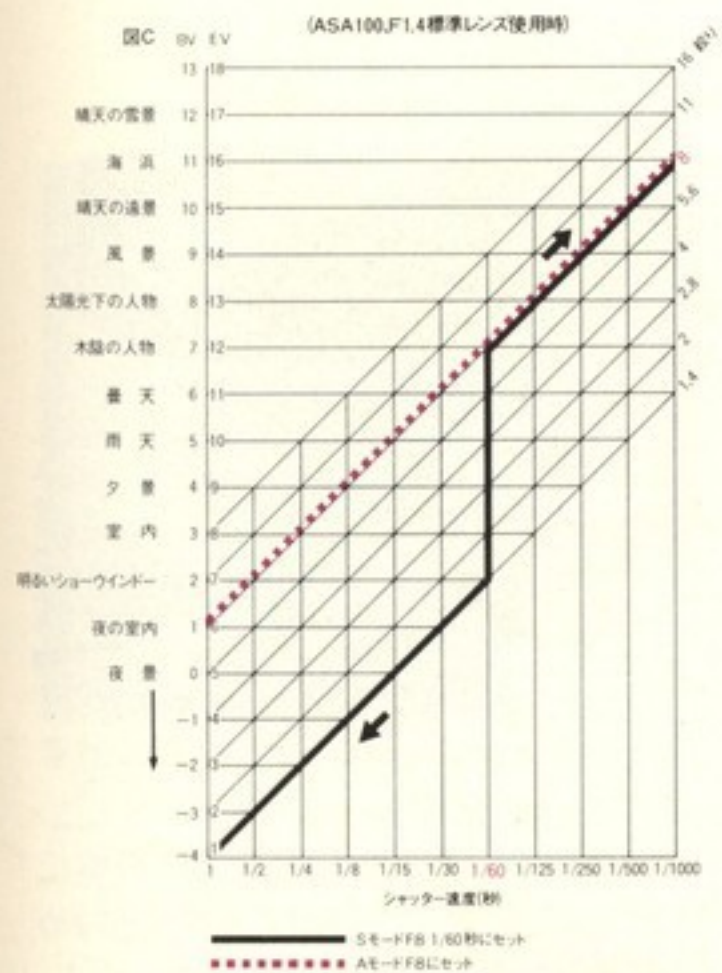
Sモードで撮影する場合、原則としてMDレンズの絞りを最小絞りにセットしますが、使用レンズの開放から最小絞りまでの間で希望する絞り値にセットしても自動露出撮影ができます。「Sモード」でシャッター速度をカメラブレ限界シャッター速度にセットし、次に希望する絞りをセットすれば、明るい被写体に対してはセットした絞りのまま明るさに応じたシャッター速度で撮影ができ、カメラブレを生じるような暗い被写体に対しては、セットしたシャッター速度で明るさに応じた絞り値になってカメラブレを防ぎます。図C…のように「Aモード」で絞りをF8にセットした場合、EV12以下の被写体では絞りF8に対してシャッター速度が $\frac{1}{60}$ 秒以下になるため、カメラブレの心配があります。しかし「Sモード」でシャッター速度を $\frac{1}{60}$ 秒（撮影者のカメラブレ限界シャッター速度）にセットし、絞りをF8（希望する絞り値）にセットすれば、図CのようにEV12

以下の被写体でもEV7まではシャッター速度は $\frac{1}{60}$ 秒のままで明るさに応じて絞りが開く方向(F8→F1.4)になりますので、「Aモード」と比べてカメラブレなしで撮影できる領域が広がります。このときの絞りが(F1.4↔F8)で自動制御されている間はファインダー内●LEDは点灯せず、 $\frac{1}{60}$ 秒より低速側へ自動補正される場合は▼LED、 $\frac{1}{60}$ 秒より高速側へ自動補正される場合は▲LEDで表示されます。この使い方は一方、自動露出撮影で一定絞り以上に絞り込みたくない撮影の場合に応用できます。



- 1 撮影モード切換レバーをSにセットします。
- 2 レンズの絞りを希望する絞り値にセットします。
- 3 シャッターダイヤルを回してカメラブレを生じないシャッター速度（標準レンズを使用する場合 $\frac{1}{60}$ 秒、 $\frac{1}{125}$ 秒など）にセットします。

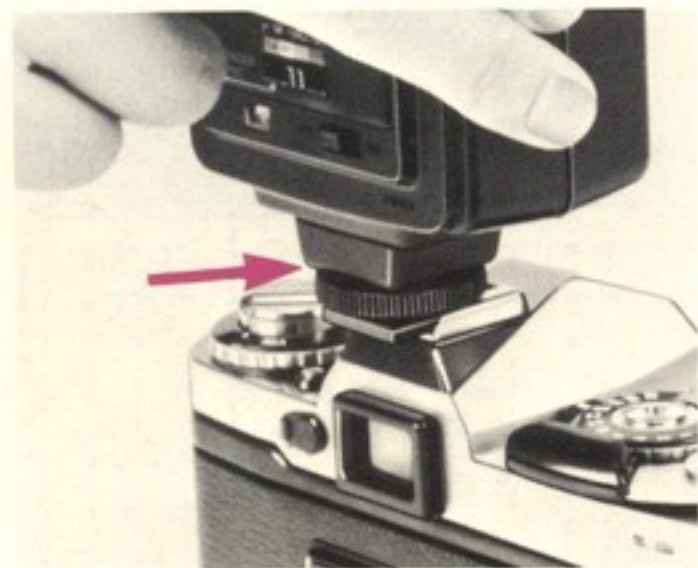
★明るすぎる被写体を撮影する場合、「開放↔F2.8」の明るい絞り値を使用すると、Aモード同様、露出オーバーになりますのでご注意ください。



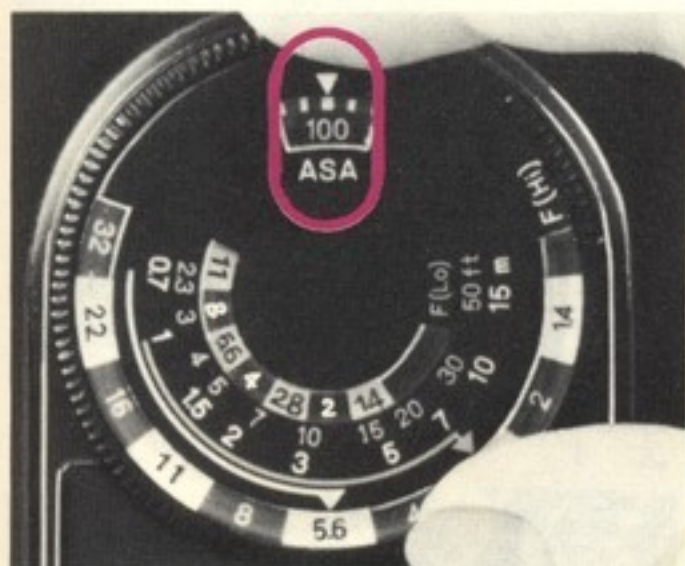
オートエレクトロ フラッシュ200Xの場合

オートエレクトロフラッシュ200Xは、カメラ制御用出力端子を備えており、フラッシュの充電が完了すると、ファインダー内のLED(▲)を点滅させ、フラッシュ発光準備を知らせ、シャッターを切ると自動的にフラッシュ同調速度 $\frac{1}{100}$ 秒で露出が与えられるように、カメラを制御します。シャッター速度のセットのし忘れによる失敗写真を防ぐばかりでなく、セットすることのわずらわしさから解放します。

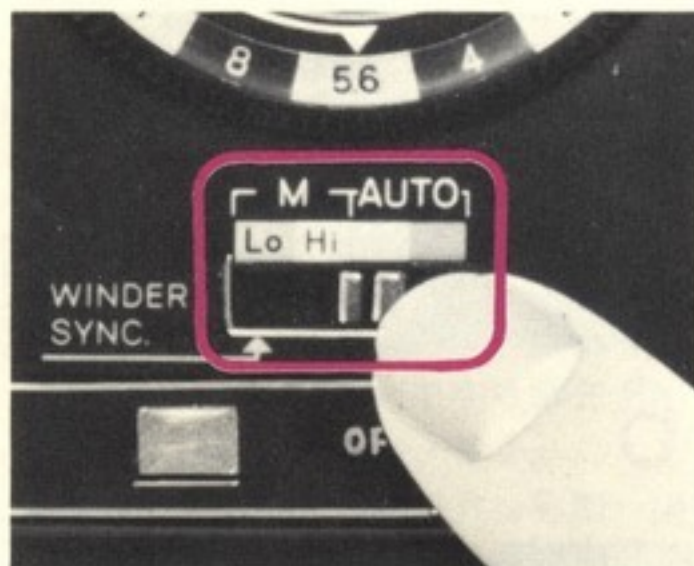
なお、フラッシュが充電完了してないときや電源をOFFにしたときは、発光せずカメラは元の撮影モードに復帰します。このほか、Ni-CdチャージャーNC-2に付属のニッケル・カドミウム蓄電池(Ni-Cd電池)をフル充電して使えば、オートファインダーDの毎秒約2コマの連続撮影に追従できる機能も備えています。詳しくはオートエレクトロフラッシュ200Xの使用説明書をご覧ください。



- 1 フラッシュをカメラに取り付けます。
- フラッシュの装着は最後まで確実に押し込み、シューロックネジを締め、カメラにしっかりと固定させます。



2 フラッシュの露出計算盤に使用フィルムのアSA感度をセットします。

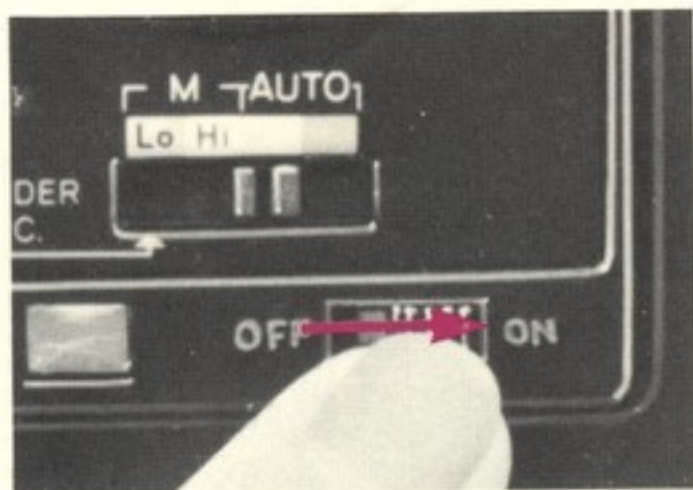


3 フラッシュのモード切換スイッチを使用モードにセットします。

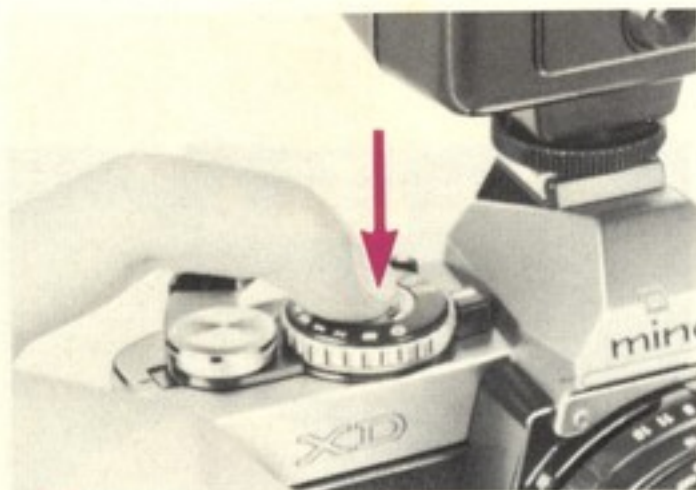


4 絞りをセットします。

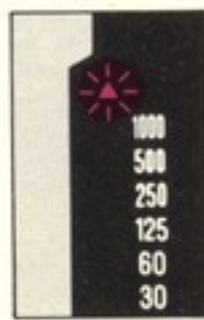
- ASA100のフィルムを使用して、フラッシュモードがAUTOの黄色のときは、F5.6にセットします。



5 フラッシュの電源スイッチをONにします。

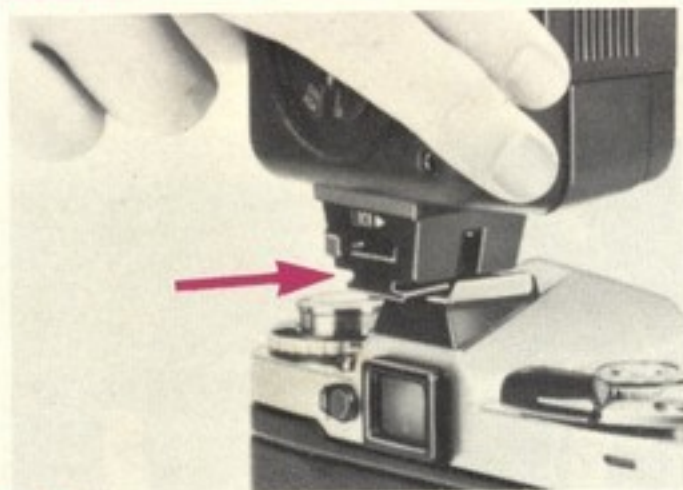


6 充電が完了したことを確認した後、シャッターボタンを押して撮影します。

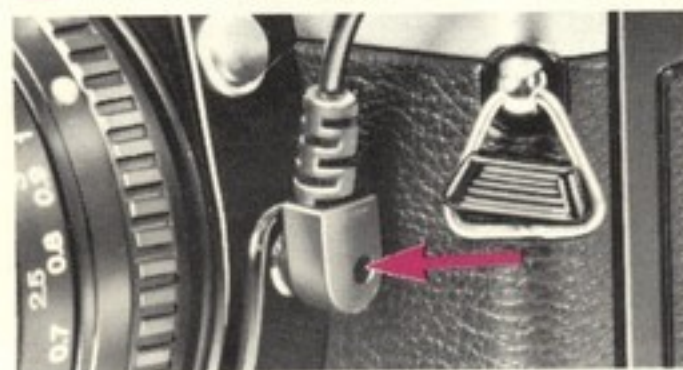


- 充電が完了すれば、シャッターボタンを少し押したとき、ファインダー内でLED▲が点滅します。
- シャッターは自動的に $\frac{1}{1000}$ 秒で切れます。ただし、シャッターダイヤルがBのときは、シャッターボタンを押している間はシャッターが開いています。

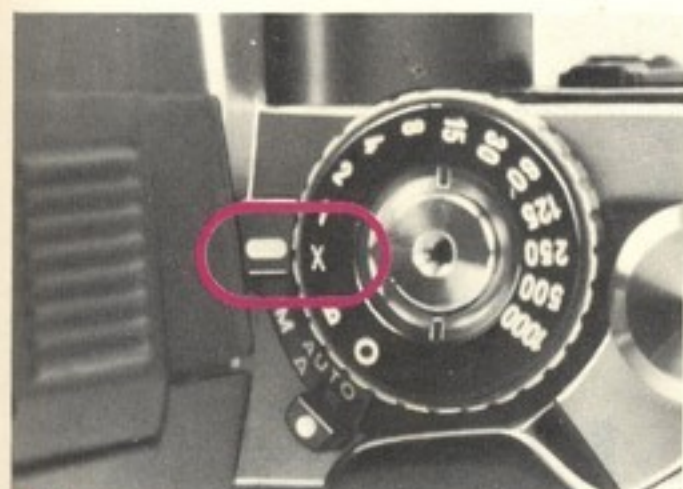
オートエレクトロフラッシュ200X 以外のフラッシュの場合



1 フラッシュをカメラに取りつけます。



- コード式のフラッシュを使用するときは、シンクロコードのプラグをシンクロターミナルに差し込みます。



2 エレクトロフラッシュの場合はXにセットします。



3 フラッシュのガイドナンバーを基準にして絞りを決めます。

- 絞りの決め方は、次の式から絞り値を求めます。端数がある場合には、それより開放寄りのいちばん近い絞り値で撮影します。

$$\text{絞り値(FNo.)} = \frac{\text{ガイドナンバー(m)}}{\text{撮影距離(m)}}$$

- 自動調光式のフラッシュを使用する場合は、その使用説明書にしたがってください

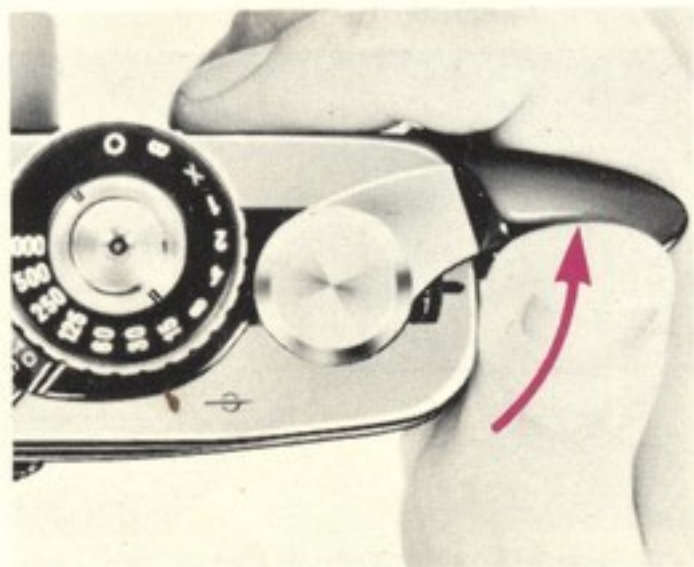
フラッシュ同調表

種類	シャッター速度												
	B	X	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000
MF・M・FP級バルブ	X	O	X	O	O	O	O	O	X	X	X	X	X

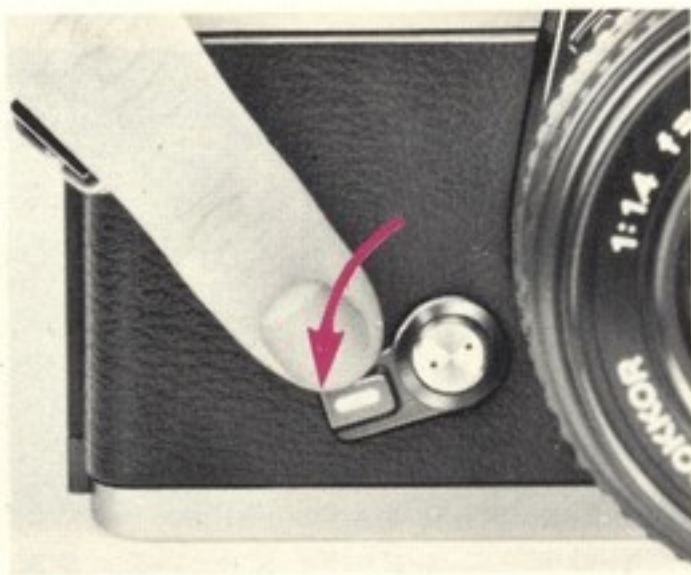
4 シャッターボタンを押して撮影します。

セルフタイマー

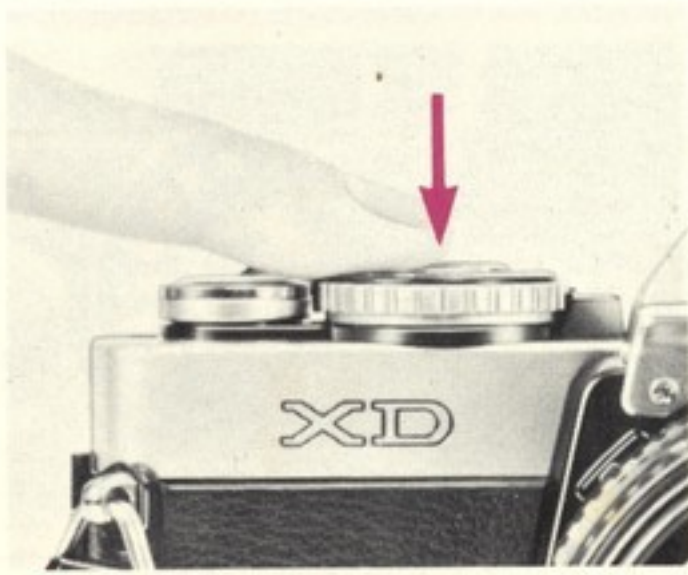
撮影者自身も画面にはいりたい記念写真やグループ写真の撮影をするときには、カメラを三脚などで固定し、セルフタイマーを用いてください。



1 フィルムを巻上げ、ピントを合わせます。



2 ボディ前面にあるセルフタイマーレバーを反時計方向に止まるまで回します。



3 シャッターボタンを確実に押し込めばセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターが自動的に切れます。

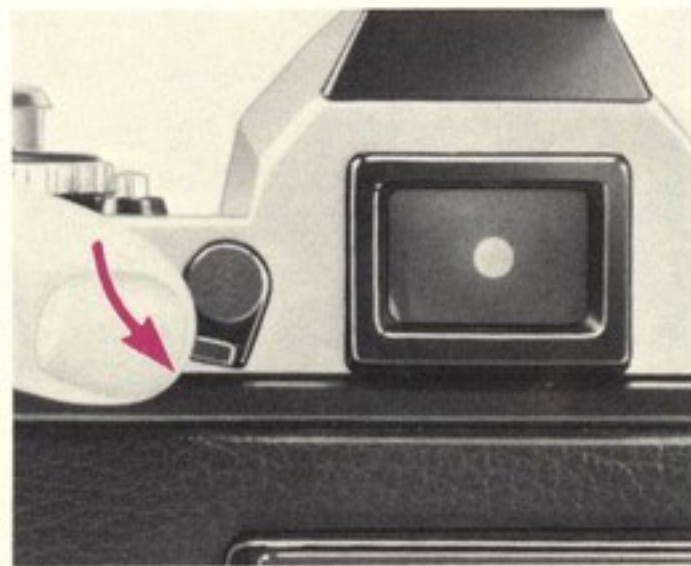
アイピースシャッター

セルフタイマーを使って撮影するときなど、ファインダーから目を離して自動露出撮影するとき、アイピースからの逆入光が露出に影響することがあります。

そのようなときには、次の方法でアイピースシャッターを閉じてから撮影してください。

- フィルムの巻上げが完全でなくてもシャッターボタンは押せますが、セルフタイマーはスタートしません。そのときには、シャッターボタンから指を離し、もう一度完全に巻上げてください。

★セルフタイマーを使うときや接写・複写などの場合のように、ファインダーをのぞかずに自動露出撮影するときは、ファインダーからの逆入光を防止するために必ずアイピースシャッターを閉じてください。



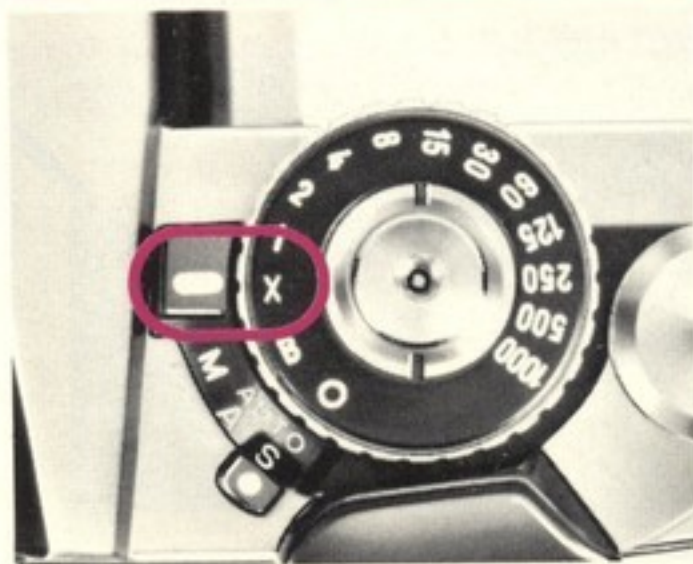
- アイピース左側のアイピースシャッター開閉レバーを矢印方向へ回します。
- アイピースから見える白丸(●)はアイピースシャッターをセットしてあることを示します。

シャッターダイヤルについて

シャッターダイヤルの1000~1とXは電磁リリースで働きます。これらの位置で、シャッターを作動させるには電池が必要です。電池の電圧が低下した場合や電池を入れてない場合には、シャッターボタンを押してもシャッターは作動しません。

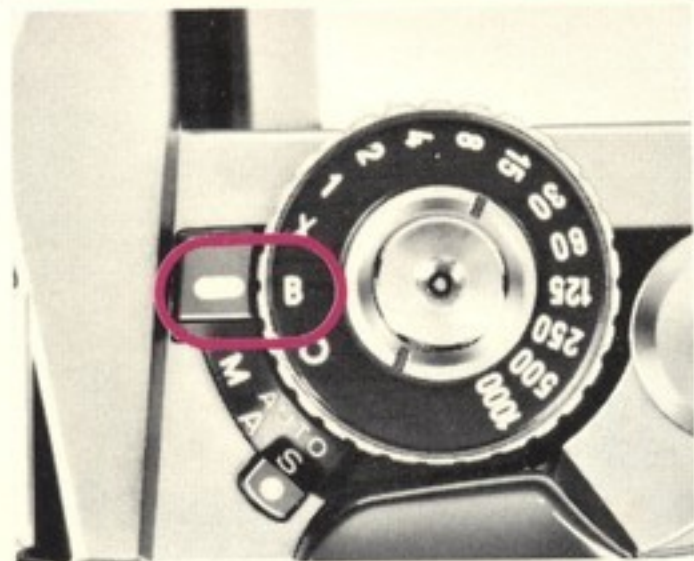
Bと○は機械制御式ですから電池のない場合でもシャッターを作動させることができます。

Xについて



オートエレクトロフラッシュ200X以外のフラッシュを使用して撮影する場合、シャッター速度をXに合わせます。このときは、 $\frac{1}{1000}$ 秒でシャッターが切れます。

B(バルブ)について

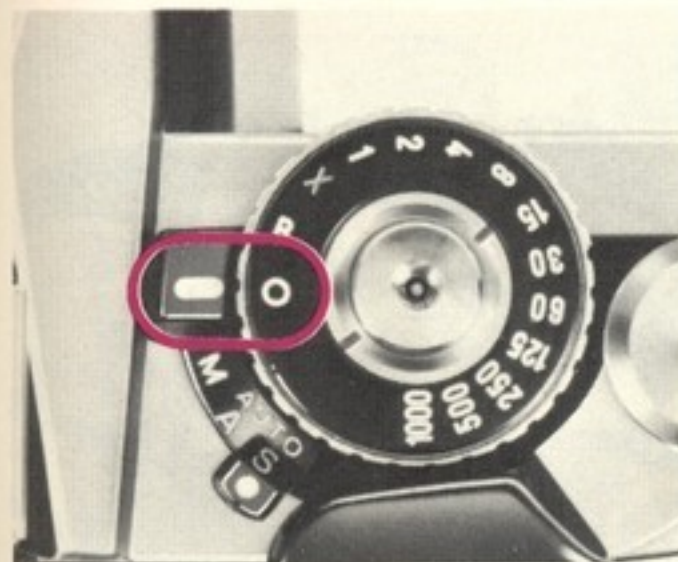


シャッターダイヤルを回してBに合わせます。シャッターを切るとシャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。シャッターボタンから指を離せばシャッターが閉じます。1秒以上の長秒時撮影のときに使用します。

- 撮影モード切換レバーがS、A、Mのどの位置にあってもモードに関係なくX、B、○の機能が優先して働きます。また、このとき、ファインダー内のLED(▲)が点灯して知らせます。

Mモード(マニュアル撮影)

○(メカシャッターマーク)について

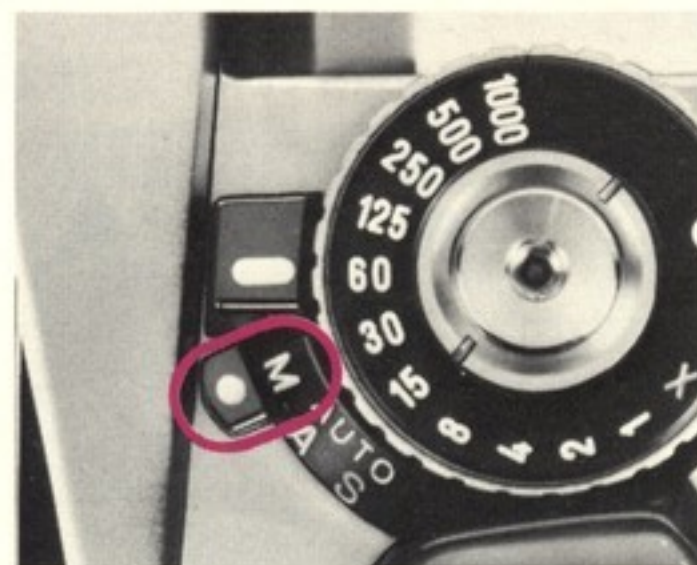


シャッターダイヤルを回して○に合わせると機械制御により $\frac{1}{100}$ 秒でシャッターが切れます。電池がなくなって、手もとに交換する電池もないとき、絞りを選んで通常の撮影は続行できます。また、フラッシュ撮影もX接点で同調します。

入射光式など単独露出計の露出決定に基づいて撮影するとき、露出補正量が $-2EV$ ・ $+2EV$ 以上のとき、大型ストロボまたはM級・MF級・FP級などのフラッシュバルブを用いて撮影するときなど、自動露出撮影しないときにMモードを使います。

撮影モード切換レバーをMに合わせると、カメラはセットしたシャッター速度と絞り値で作動します。

ファインダー内には設定シャッター速度と設定絞り値が表示されます。(MD/MCロッドコールレンズ使用時)
LED表示されたシャッター速度を基準にして露出合わせすることもできます。



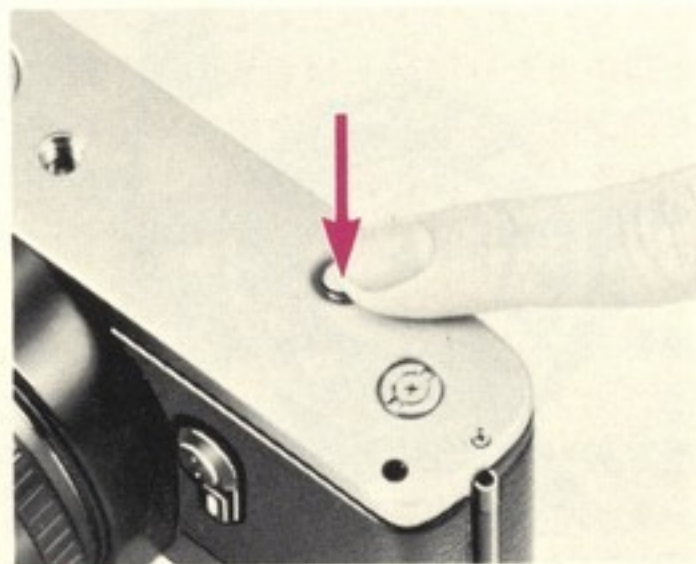
- 撮影モード切換レバーは必ずクリックの位置にセットしてください。クリック以外の中間位置では使用できません。

多重露光撮影

多重露光ボタンを押してから巻上げるとフィルムは送られず(フィルムカウンターも進みません)、シャッターのみがチャージされますので、同一コマにくり返して撮影ができます。

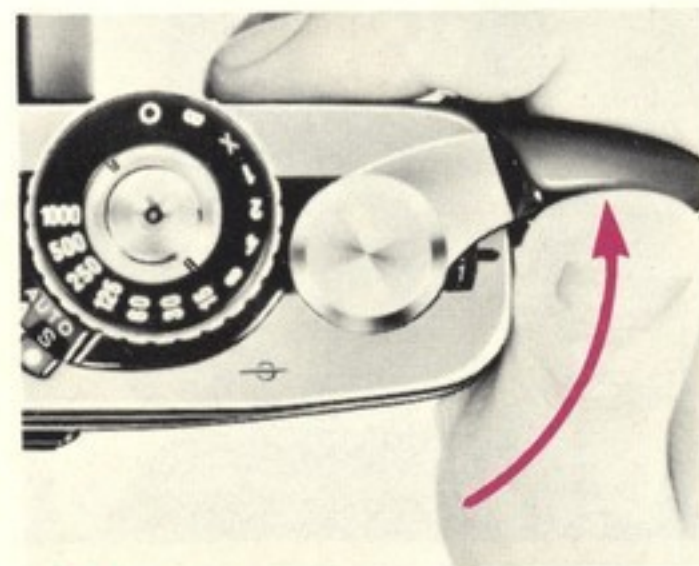


1 シャッターボタンを押して1回目の露光をします。



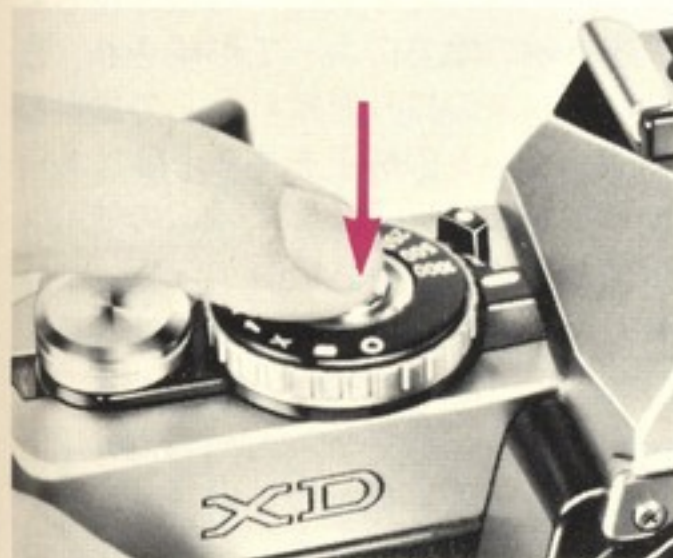
2 多重露光ボタンを押します。

- 多重露光ボタンを押した後は必ずボタンから指を離してください。



3 フィルムを巻上げます。

- フィルムを巻上げれば多重露光ボタンは元にもどります。



4 シャッターボタンを押して2回目の露光をします。

2~4の操作のくり返しにより何回でも多重露光撮影ができます。

露出の補正

シーンにより異なるので一概にいえませんが、画面全体が明るい被写体や同じ被写体を自動露出で多重露光撮影をするときには、露出の補正が必要なきがあります。そのときには、右の表を参考にして補正してください。

Mモードの場合も同程度露光量を控えてください。

ただし、夜空に開く花火や夜景に人物を写し込むときなどには露出補正は不要です。

多重露光の回数	露出補正レバーの位置
2回	-1
3回	-1.5
4回	-2

- 多重露光撮影をしてもフィルムは動かないよう機構的に配慮されていますが、フィルムのたるみなどで、ときには微少のズレが生じることがあります。

★プリントを依頼される時、多重撮影していることをあらかじめ店頭で申し出ないと、画面ダブリとまちがえられ、プリントされない場合があります。

赤外線撮影

白黒赤外フィルムの場合

白黒の赤外線写真は、白黒赤外フィルムとO56またはR60フィルターを用います。

赤外線は通常撮影する可視光線よりも波長が長いので、ファインダーでピントを合わせただけではフィルム面でピントが合いません。そのため、ほとんどのロッドコールレンズには、被写界深度目盛のところに、Rで赤外線用ピント補正の位置を示してあります。

赤外線撮影をする場合は、一度フィルターなしでピントを合わせた後、距離目盛の数値をRマーク(赤外線指標)までズラせ、フィルターを取りつけてから撮影します。



- Rマークは赤外波長768nmで設計されたものです。赤外ストロボの中には、Rマークにズラただけでは適合しないこともありますので確認のうえご使用ください。
- 撮影するときは、撮影モード切換レバーをMにして、赤外フィルムの使用説明書にしたがって露出を決めてから行なってください。

カラー赤外フィルムの場合

カラーの赤外線写真は、可視光線および赤外線の両方によって形成され、通常はレンズの絞りを絞り込んで撮影すれば、ピントの補正をする必要はありませんが、詳しくはフィルムの使用説明書をお読みください。

- カラー赤外フィルムとしては、コダックIE-135-20があります。指定フィルターは、コダックラッテンNo.12フィルターですが、当社のフィルターY52も使用できます。

プレビューボタン

絞り効果の確認

オートプリセットのレンズ(MDロッコールレンズ、MCロッコールレンズ、オートロッコールレンズ)は、カメラの作動中以外はファインダー像が常に開放絞りの状態になっていますので、撮影状態の絞りでピントの合う範囲(被写界深度)を確かめたいときには、プレビューボタンを押して、セットした絞り値まで絞り込むと、ファインダー内でおおよその状況を確認できます。被写界深度を確認した後、プレビューボタンから手を離せば、絞りは自動的に開放の状態にもどります。

通常するとき



絞り込んだとき



深度目盛

被写界深度を正確に知るためには、レンズのパッケージに同封されている被写界深度表をご覧ください。

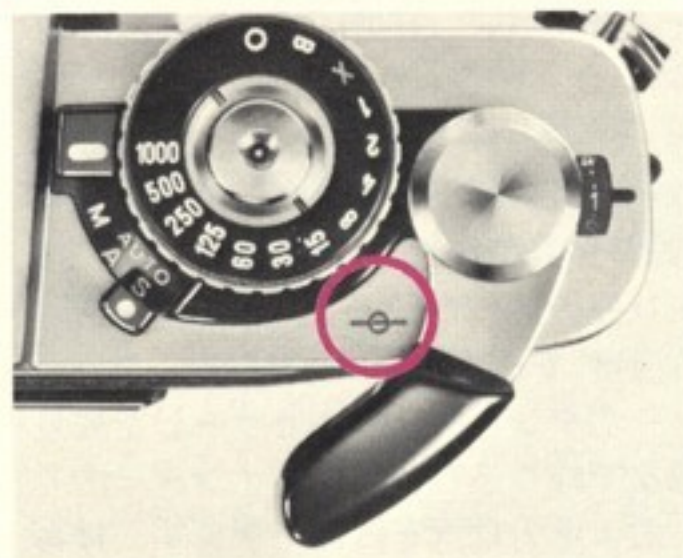
また、被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。たとえば、撮影距離が5mで絞りをF8に合わせてあったとしますと、約3.5~10mまでのものはだいたい鮮明に写ることがわかります。

深度目盛は目測でピントを合わせてスナップ撮影をするときや絞り効果を意図して撮影するときにご利用すると便利です。

ピントの合う範囲



⊖マークについて



カメラボディの上面にある⊖マークはフィルム面の位置を示しています。接写などでフィルム面から被写体までの正確な距離（一般に撮影距離と呼んでいます）が、必要な場合に、メジャーで⊖マークから測定してください。

交換レンズについて

XDは不変のミノルタバヨネットマウントを継承していますので、焦点距離7.5mmの魚眼レンズから1600mmの超望遠レンズまで、すべてのロックールレンズが使えます。

MDロックールレンズ

MDロックールレンズは、Sモード・Aモード・Mモードに対応できる機能を備えていますので、XDに装着するとXDボディの持っている機能をフルに発揮させることができます。つまり、S・A・Mのすべての撮影モードで使用できます。

MCロックールレンズ

MCロックールレンズは、AモードやMモードに対応できる機能を備えていますので、AモードとMモードで使用できます。Sモードではそれに対応できる機能については配慮されていませんので適正露出の保証もされません。

オートロックールレンズ

オートロックールレンズ群もAモードとMモードで使用できます。ただし、Aモードの撮影では絞り込みの必要はありません。「適正シャッター速度」の表示を見たいときのみプレビューボタンを押し込んで確認してください。

Sモードでは、これに対応できる機能についてレンズ側で配慮されていませんので、使用しないでください。

★旧オートプリセットレンズの内、一部使用できないものがあります。詳しくは各地サービス・ステーションにご相談ください。

RFロックレンズおよび ハンドプリセットレンズ

RFロックレンズ群をXDに装着すると、AモードとMモードで使用できます。RFロックレンズには絞り機構がありませんので、Sモードでは特定の輝度の場合を除いて設定したシャッター速度が常に自動補正されますので、結果的にはAモードと同じになります。

ハンドプリセットのレンズもRFロックレンズの場合と同じように、AモードとMモードで使用できます。

MD / MCロックレンズと 付属品を使用するとき

カメラボディとレンズの間に付属品（オートベローズIやMCオート中間リングなど）を使用する場合は、AモードとMモードで使用できます。

シフトレンズ

シフトレンズをシフトして使用する場合には、画面中央部の測光範囲はイメージサークルの中心からはずれ、シフト量に応じて測光誤差が生じますので、Mモードで撮影してください。

参考

XDで露出を決める場合には、撮影モード切換レバーをMにしてシフトしない状態でプレビューボタンを押し込んで測光してから、撮影してください。

各撮影モードで使用できる交換レンズ・付属品の一覧表

撮影モード 使用レンズ	Sモード	Aモード	Mモード
MDロックオールレンズ	○	○	○
MCロックオールレンズ	—	○	○
オートプリセットレンズ	—	○※1	○
ハンドプリセットレンズ (RFを含む)	—	○	○
MD/MCロックオールレンズと付属品を使用のとき (オートベローズI ベローズIII MCオート中間リング マクロ50/100mm専用中間リング 2Xコンバーター リバースリング)	—	○※2	○

※1. オートプリセットレンズ使用で、露出表示を確認するときのみ、プレビューボタンを押してください。

※2. MD/MCロックオールレンズ + オートベローズIのとき、露出表示の確認はプレビューボタンを押してください。

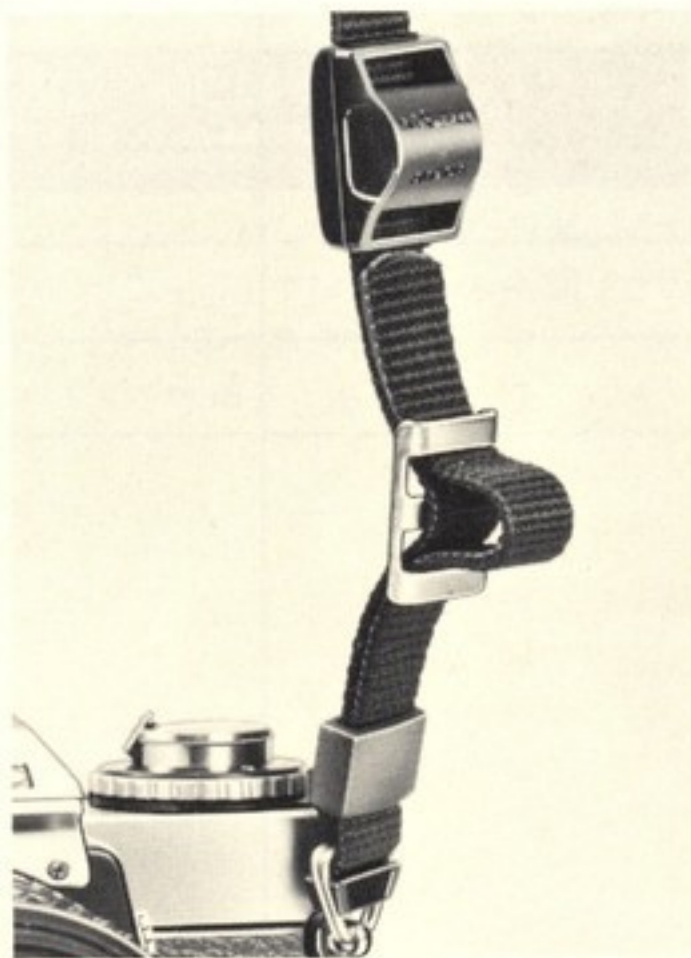
ストラップの取り付け方

撮影の前に必要に応じてストラップを取りつけてください。



1 ストラップを肩当てと電池ケースに通します。

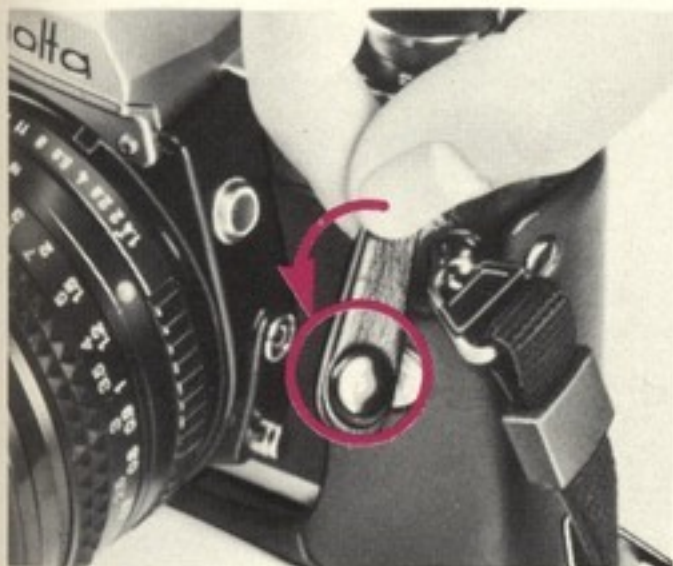
- 電池ケースには予備の電池を2個入れることができます。長期間の旅行のときなどに利用すれば便利です。
- 旅行のときには新しい電池を携帯するよう心がけてください。
- 電池を取り出すときは電池ケースからストラップをぬいてください。



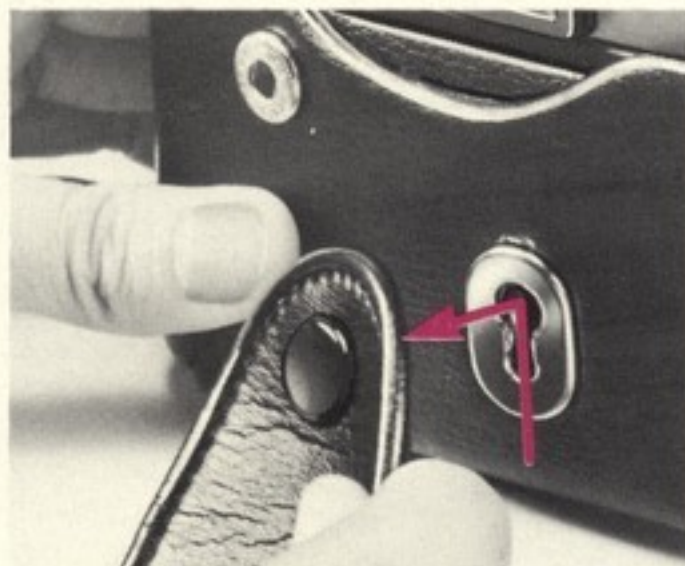
2 ストラップの両端をボディ側の三角環に通して固定します。

- ストラップの長さは肩から下げやすい長さに調節してください。

ケースの着脱



1 カメラをケースに入れ、ケースのフックを三角環にひっかけてスナップを止めます。



2 前カバーはケース連結金具でケースに取り付けられています。前カバーをケースからはずすときは、上方にスライドさせてから手前に引いてください。

- 前カバーを取りつけるときは、ケース連結金具の突起をケースの穴に差し込み、それから下方にスライドさせます。

★ケース連結金具をはずすとき、上方にスライドさせずに無理に引っ張ると破損することがあります。

- ケースは別販売になっております。

参考編



専用アクセサリ

オートワインダーD

オートワインダーDは、XD専用の自動巻上げ装置です。XDに取りつけて使用すれば、常にフィルムが巻上げ状態になり、シャッターボタンを押すと毎秒約2コマの連続撮影や1コマ撮影ができます。巻上げのわずらわしさから解放され作画や撮影に集中できるばかりでなく、常に巻上げ状態にあるため撮影のチャンスを逃がさず、また連続撮影にも非常に便利です。

電源には単3型電池(マンガン乾電池、アルカリマンガン乾電池、ニッケル・カドミウム蓄電池)4本を使用します。

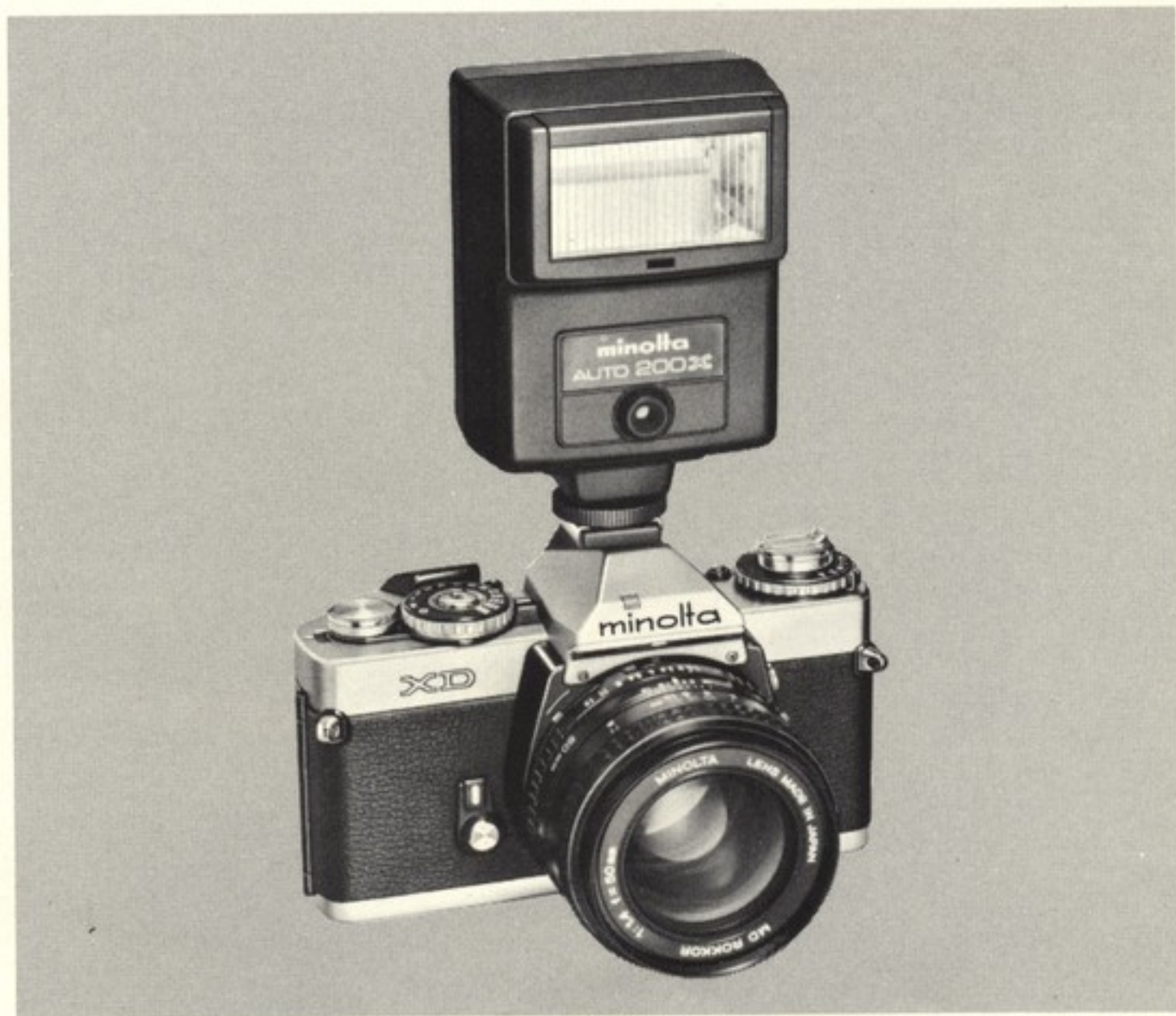


オートエレクトロフラッシュ200X

オートエレクトロフラッシュ200Xは、自動調光式フラッシュで、XDに装着すると充電完了信号がカメラ側に入力され、ファインダー内LEDを点滅表示し、シャッターを切ると自動的にフラッシュ同調速度 $\frac{1}{100}$ 秒で露出が与えられます。

また、モード切換スイッチをMのLo (ガイドナンバー、7 ASA100・m)にセットして使用すれば、ワインダーに同調して毎秒約2コマの連続発光ができます。(ただし、フラッシュにNi-CdチャージャーNC-2に付属のNi-Cd電池をフル充電して使用のとき)

本器は、発光間隔(リサイクルタイム)の短い直列制御方式を採用しています。電源には単3型電池(マンガン乾電池、アルカリマンガン乾電池、ニッケル・カドミウム蓄電池)4本を使用します。

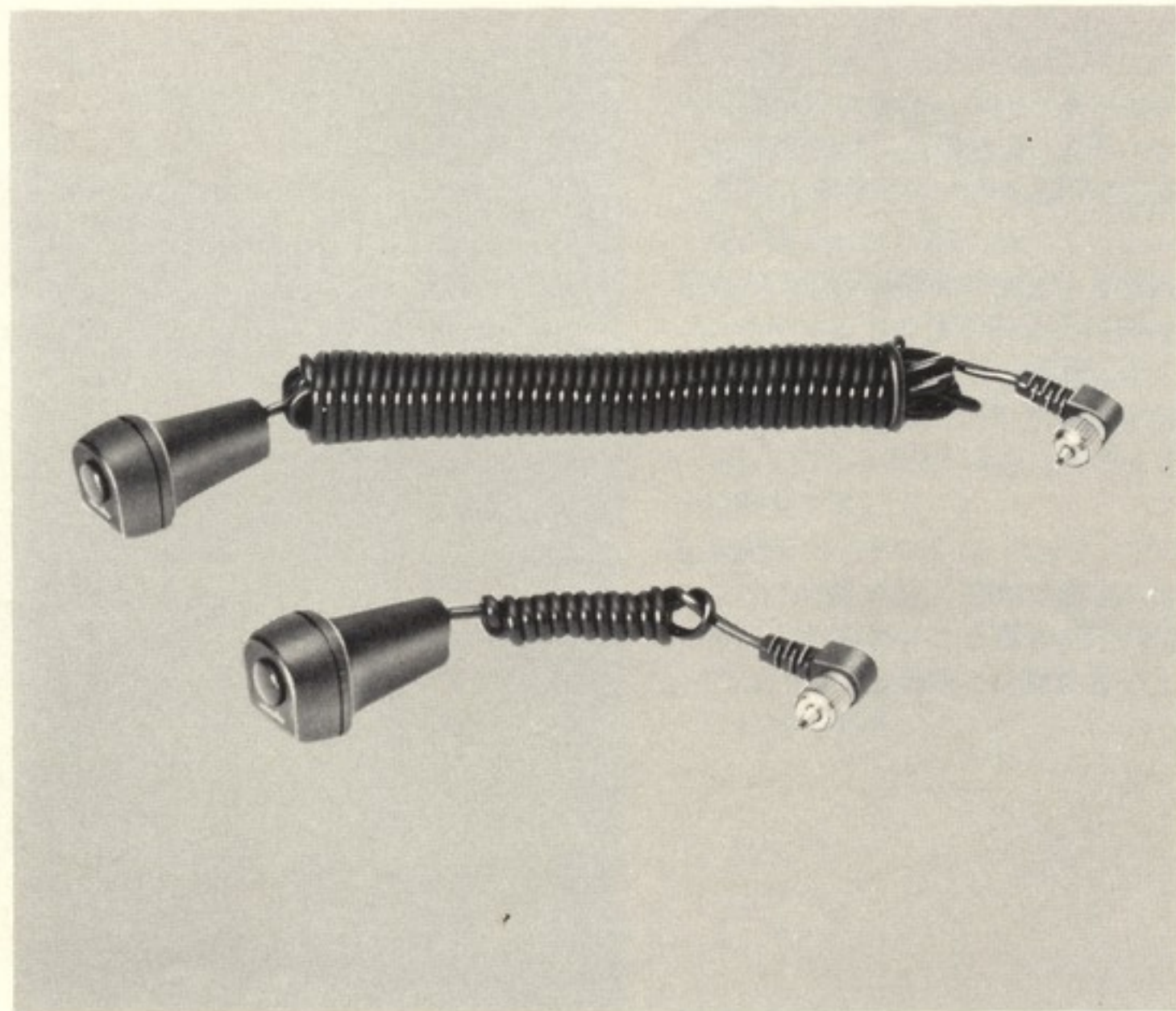


リモートコードS/L

XDは電磁レリーズを採用していますから、リモートレリーズターミナルにリモートコードを取り付けるだけで遠隔操作ができます。コードの長さはSが50cm、Lが5mです。

リモートコードSは、三脚などを用いてスローシャッターを切るときにお使いください。カメラブレを防ぐのに最適です。

リモートコードLは、野外の観察記録(野鳥、動物、昆虫)の撮影で、被写体に気づかれないようにシャッターを切りたい場合に最適です。



カメラケースW

カメラケースWは、ミノルタXDにオートワインダーDを装着したままの状態でも収納できるカメラケースです。カメラからオートワインダーを取り外すことなく携帯することができます。(このカメラケースWは、ミノルタXG-EにオートワインダーGを装着した状態でも共通して収納できます。)



手入れと保存の方法

手入れのしかた

- ①カメラの清掃はからぶきでカメラはほこりをきらいます。ときどき、カメラの清掃をしてください。まず、ブロアーでほこりを吹きとばし、次に柔らかい清潔な布でよくふいてください。カメラを清掃するときにシンナー、ベンジンなどの溶剤は絶対に使用しないでください。なお、ブラックボディをお買上げの方は、XDブラックボディ用の“ウレタンクロス”に在中の説明書をよくお読みになってカメラの清掃にお役立てください。(なお、このウレタンクロスは、他のミルター眼レフの清掃にご使用になっても結構です。)
- ②レンズの清掃はレンズクリーナーでレンズは絶えずよごさないように注意してください。もし、誤ってよごした場合、ブロアーでほこりを除き、清潔な布で軽くふきとってください。それでもよごれがとれないときには、

レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー(コダック製、富士フイルム製など)をごく少量つけて軽くふきます。

液体クリーナー以外は絶対に使わないでください。

- ③シャッター幕の清掃は、はけでXDのシャッター幕は金属羽根でできていますが薬品でシャッター幕をふきますと、羽根のすき間から薬品がしみ込むことがあります、内部の機構をそこなうことがありますので、シャッター幕の清掃ははけでほこりをとる程度にしてください。
- ④ミラーには手を触れないでください。小さなごみやよごれがあってもミラーの機構には影響がありません。手でミラーを上げ下げすることは微妙な調整をくずすおそれもありますのでご注意ください。

保存のしかた

- ①2週間以上使用しないときは必ず電池を取り出しておいてください。電池の漏液でカメラを害することがあります。
- ②カメラの保存場所は高温・多湿のところやほこりっぽいところは避け、風通しの良いところに保管してください。乾燥剤(シリカゲルなど)といっしょにかんの中にしまっておくとより安全です。
- ③自動車のリアウインドやトランクの中などに放置すると、極度の高温になり、カメラを故障させる場合がありますので、このような場所には置かないようにしてください。

おもな性能

カメラタイプ	電子制御式35mmフォーカルプレーンシャッター付一眼レフA Eカメラ
撮影方式	シャッター速度優先A E撮影、絞り優先A E撮影、マニュアル撮影
使用フィルム	J135ロールフィルムバトローネ入り
画面サイズ	24×36mm
レンズマウント	ミノルタバヨネットマウント
標準レンズ	MDロッコール50mm F1.2、MDロッコール50mm F1.4、MDロッコール50mm F1.7
フォーカシングスクリーン	中央部……スプリットマイクロプリズム式 周辺部……特殊微粒散光面(アキュートマット式)
ファインダー視野率	94% (標準画面24×36mmに対して)
ファインダー倍率	0.87倍(50mm標準レンズ∞のとき)
ファインダー内表示	Sモード時……設定シャッター速度、設定絞り値、絞り目盛、絞り表示用LED、 絞り連動域外LED、フラッシュ充電完了シグナル Aモード時……設定絞り値、シャッター速度目盛、シャッター速度表示用LED、 シャッター速度連動域外LED、フラッシュ充電完了シグナル M(マニュアル)時…設定シャッター速度、設定絞り値、シャッター速度目盛、シャッター速度 表示用LED、シャッター速度連動域外LED、フラッシュ充電完了シグナル
測光方式	TTL 中央重点的平均測光
自動露出範囲	EV1~EV18(ASA100・F1.4レンズのとき)、EV3~EV18(ASA400・F1.4レンズのとき)
フィルム感度目盛	ASA12~ASA3200(1/3段ごとにロック付)
露出補正装置	標準値より±2EV(無段階)の範囲で補正可能 -2、-1、0、+1、+2の位置にロックあり
シャッター	電子制御式メタルフォーカルプレーンシャッター(縦走り)
シャッター速度	オート……1秒~1/1000秒(Aモード時、無段階) マニュアル……X(1/1000秒)、1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1000秒 メカニカル…○(1/1000秒)、B(バルブ) ○、Bは機械制御式で電池がなくても使用可能

シャッターレリーズ	電磁レリーズ、リモートコード取り付け可能 電池電圧低下時シャッターレリーズロック
セルフタイマー	シャッターボタンによるスタート、作動時間約10秒
フラッシュシンクロ	X接点 エレクトロフラッシュ…X (1/1000秒)より低速度に同調 フラッシュバルブ……………1/50秒より低速度に同調
アクセサリースュー	ダイレクト接点、シンクロオートコントロール接点(専用のミノルタオートエレクトロフラッシュ200X用)、感電防止装置付
シンクロターミナル	JIS-B型ソケット
フィルム巻上げ	一作動レバー巻上げ式、巻上げ角130°、予備角30°、オートワインダーD装着可能
フィルムカウンター	自動復元順算式(多重露光撮影の場合は進まず)
フィルム巻きもどし	巻きもどしボタン、巻きもどしクランクによる方式、巻きもどしボタン自動復元
ミラー	スライドアップ式クイックリターン、作動音防止およびショック防止装置付
裏ぶた	裏ぶた開閉ノブ引上げ式、ワンタッチロック式、着脱可能
使用電池	銀電池JIS G-13型 1.5V 2個
バッテリーチェック	シャッターボタン押し下げ式
その他	アイピースシャッター付、フィルムシグナル付、メモホルダー付、 プレビューボタン付、多重露光撮影装置付
大きさ	86×136×51mm(ボディのみ)、
重量(ボディ)	560g(電池別)
専用付属品	ミノルタオートワインダーD、ミノルタオートエレクトロフラッシュ200X、リモートコードS/L、カメラケースW

●この使用説明書に記載の性能および製品の仕様・外観は都合により予告なしに変更する場合があります。

ミノルタカメラでは、ご愛用のみなさまからのご質問、ご相談、カメラ修理、その他アフターサービスなどいっさいを承りますために、各地にサービス・ステーションを設けております。詳しくは、「アフターサービスのご案内」に記載しておりますので、ご参照ください。

Minolta

ミノルタカメラ株式会社

〒541 大阪市東区安土町2丁目30番地 (大阪国際ビル)

☎ (06) 271-2251 (代)

〒105 東京都港区浜松町2丁目4番1号 (世界貿易センタービル)

☎ (03) 435-5511 (代)

NO. 8G10E 1978. 7. 印刷